

# 修道

No. 68

題字は吉田学(高21)書

修道学園同窓会連合会  
修道学園(中・高)同窓会

〒730-0055 広島市中区南千田西町8-1  
TEL(082)241-8291 FAX(082)249-0870  
TEL(082)241-6686(同窓会直通)  
E-mail dosokai@shudo-h.ed.jp



同窓会連合会と(中・高)同窓会合同幹事会・評議員会

## 目次

### 同窓会ニュース

- 平成21年度予算承認 ……1404
- 平成20年度決算を承認 ……1406

### 支部だより

- 『09修道学園同窓会関東支部のつどい』と執行部交替 ……野崎 敬二 ……1409
- 第53回(平成21年度)修道医会総会の報告 ……井内 康輝 ……1411
- 第15回江能修友会総会 ……胡子 雅信 ……1413
- 広島市修道会 ……水口 直也 ……1414

### 同期会報告

- 四期会総会 ……皆川 孝一 ……1415
- 25回同期会 ……三輪 裕久 ……1417

### 特別寄稿

- 山田養吉先生の「丙寅日記」を読む(その三) ……畠 眞實 ……1418
- シニア大会に参加して ……林 孝治 ……1437
- 修道中学の思い出 ……河喜多龍正 ……1439

### 学園だより

- 世界ユース入賞報告・見よや修道魂を ……1441
- 体育館新築工事進捗状況報告 ……1442

### 人物往来

- 激戦区 小回りで勝負 ……高木 一之 ……1443
- 広島経済同友会 深山・高木体制が発足 ……深山 英樹 ……1443
- 被爆者治療支援進める ……碓井 静照 ……1444
- 環境など新産業創造 ……福田 浩一 ……1444
- 温室ガス削減中期目標 ……斉藤 鉄夫 ……1445
- 広島県観光連盟会長に就任 ……大田 哲哉 ……1445
- 不況の中小融資で支援 ……坪井 宏 ……1446
- 新人時代 ……大方幸一郎 ……1446
- 日本遊泳大会によせて ……静川 周 ……1446
- 新社長 不況下付加価値で勝負 ……白井浩一郎 ……1447
- 新しい価値観運ぶエコカー ……藤井 一裕 ……1447

### 事務局だより

- 第35号修道学園(中・高)同窓会名簿発刊について ……1448

- 計 報 ……1448

# 平成21年度予算承認

平成21年 3月25日  
同窓会連合会、(中・高)同窓会  
合同幹事会・評議員会

## 合同幹事会・評議員会記録

日 時：平成21年 3月25日(水) 18:30～19:00

場 所：ホテルセンチュリー 21広島 3階 プラド

### 出席者

#### (幹事・監査)

大田 哲哉	高木 一之	土井 洋二
貫名 賢	伊藤 學人	廣谷 清
中村靖富満	上野 淳次	脇浦 則行
河野 徳男	藤原 幹	下村 幸男
菊田 良三	(代理：河野富士雄)	
上向井快三	(代理：渡辺 浩其)	
奥窪 和夫	山下 泉	桐林 正樹
今井 誠則	笹野 正明	藤居 道正
河口龍太郎	中本 高明	福原 俊二
和田 章宏	蔵田 修	仮田 典久
佐々木 明	中島 弘規	井上 徹
大内 茂稔	大方幸一郎	北村 直幸
田戸 亨	小川 文象	庄子 佳良
畑尻 隆司	佐々木慶市	酒井 一成

#### (評議員)

森信 毅	高村 敏文	栗原 儀郎
天野 和人	河本 武彦	石本 芳郎
坪田 幸雄	林 孝治	西田 頼信
中村 和彦	正本 良忠	松野 龍荘
梅田 博之	国田 昌之	中村 陽一
大国 進	山崎 経男	古本 稔
諏訪 惇	田中 博司	倉田桂二郎
畠 眞實	山木戸道郎	吉田 邦介
井上 武彦	横田 守	先家 裕司
安田 邦男	池本 章	林 正夫
児玉 光禎	西元 義昭	平岡 康司
増本 光雄	杉田 輝征	山木 靖雄

熊野 澄雄	加藤 和行	菊崎 賢
木村 静雄	三村 邦雄	森吉 努
熊野 眞	畠山 進	穴田 一善
中村 幸信	沖 清	大西 龍夫
島村 誠	松枝 茂樹	峠田 栄司
大谷 浩司	柴崎 雅雄	光田総一郎
木之上 馨	上田 大輔	土屋 博行
富田 恵治	橋本 郁朗	松井 茂幸
土岸 弘典	田上 克彦	久保田貴八郎
石井 良昌	榎原 一成	石田 誠治
海生 知亮	池田 勝彦	下川 純二
藤原 竜太	筒井 直樹	下川 信宏
香月 孝史	西村 昌浩	岡本 耕造
金島 茂則	井東 康三	緒方 直之
内藤 貴明	尾上 正幸	石川 裕敏

#### 《事務局》

若宮 寿仁	石井健二郎	田中 佳樹
安竹 和彦	藤原 美子	大橋 康雄

#### 《同窓大会世話人》

高校53回 大辻 健介 山田 英輝 ほか

## 議事及び審議の結果

議案の審議に先立ち、修道学園(中・高)同窓会及び修道学園同窓会連合会との合同幹事会を開催する旨の宣言がなされた。

大田 哲哉同窓会連合会会長代理から開会の挨拶があり、慣例により大田会長代理が議長となることが了承された。

#### 議案

1. 平成21年度修道学園(中・高)同窓会予算について

平成21年度修道学園(中・高)同窓会資金収支予算書(案)について事務局から説明がおこなわれた。収入の部は、入会金852,000円 終身会費1,988,000円 名簿売上代1,000円 預金利息155,000円 雑収入500,000円 事業基金引当特定預金からの繰入収入1,000円 名簿作製引当特定預金からの繰入収入1,000円 陶板画レプリカ売上代150,000円 小計は3,648,000円となり、前年度繰越金25,907,000円を合わせると、収入の部の合計は29,555,000円となる。支出の部は、事業費1,671,000円(内訳:名簿作製費1,000円 激励費500,000円 同窓大会補助金200,000円 卒業記念品料590,000円 その他の事業費380,000円) 業務費915,000円(内訳:会議費280,000円 通信費265,000円 慶弔費200,000円 諸費170,000円) その他の支出381,000円(内訳:連合会分担金284,000円 事業基金引当特定預金への繰入支出96,000円 名簿作製引当特定預金への繰入支出1,000円) 予備費500,000円 小計は3,467,000円となり、収入合計から差し引いた次年度繰越金は26,088,000円となる。支出の部の合計は29,555,000円となる。

## 2. 平成21年度修道学園同窓会連合会予算について

平成21年度修道学園同窓会連合会資金収支予算書(案)について事務局から説明がおこなわれた。収入の部は、分担金1,425,000円 預金利息81,000円 雑収入1,000円 事業基金引当特定預金からの繰入収入1,000円 小計は1,508,000円となり、前年度繰越金16,432,000円と合わせると収入の部は17,940,000円となる。支出の部は、事業費350,000円 業務費620,000円(内訳:会議費260,000円 通信費120,000円 慶弔費150,000円 諸費90,000円) その他の支出33,000円(内訳:事業基金引当特定預金への繰入支出32,000円 名簿作製引当特定預金への繰入支出1,000円) 予備費500,000円 小計1,503,000円

となり、収入合計から差し引いた次年度繰越金は16,437,000円となる。支出の部の合計は17,940,000円となる。

以上、(中・高)同窓会予算および同窓会連合会予算は審議の結果原案どおり承認された。

## 報告事項

### 1. 同窓会名簿の発刊について(中・高)

修道学園(中・高)同窓会名簿第35号の発刊について、会誌名簿委員長中村靖富満氏より、発刊予定は平成22年3月末を予定しており、販売価格は5,500円であること、業務委託先は同窓会名簿で全国的に業務を展開している株式会社サラトとしていること、その他委託業務内容、名簿の仕様、発刊予定部数、広告単価、今後のスケジュールについて詳細な説明がなされ、調査にご協力をいただきたい旨の報告があった。

### 2. 平成21年度同窓大会の開催について

#### 広島修道大学同窓会からの報告

上野淳次会長より、同窓大会については今年度についても11月の第1土曜日にリーガロイヤルホテル広島にて開催する旨の報告があった。

#### 広島修道大学大学院同窓会からの報告

脇浦則行名誉会長より、今年度は6月27日(土)にJALシティ広島にて開催する旨の報告がなされた。

#### 廣谷清担当副会長からの報告

9月5日(土)18時からリーガロイヤルホテル広島で開催する旨の報告がなされた。その後、世話人の大辻健氏より、お力添えをお願いしたい旨の挨拶がなされた。

#### 事務局からの報告

会報誌「修道67号」、「修道学園通信81~83号」「アルマガゼット36号」を同封しているので高覧いただきたい旨の報告がなされた。

以上

# 平成20年度決算を承認

平成21年6月1日  
同窓会連合会、(中・高)同窓会  
合同幹事会・評議員会



大下龍介同窓会連合会会長ご挨拶

## 合同幹事会・評議員会記録

日 時：平成21年6月1日(月) 18:30~19:00  
場 所：ホテルセンチュリー21広島 2階 フォルザ

### 出席者

#### (幹事・監査)

大下 龍介	大田 哲哉	高木 一之
土井 洋二	貫名 賢	伊藤 學人
松田 弘	廣谷 清	中村靖富満
上野 淳次	脇浦 則行	下村 幸男
仁井田幸雄	奥窪 和夫	大塚淳八郎
桐林 正樹	今井 誠則	笹野 正明
山本 一	藤居 道正	中本 高明
船倉 智雄	中本 憲治	福原 俊二
和田 章宏	蔵田 修	仮田 典久
佐々木 明	中島 弘規	井上 徹
久保 康治	大方幸一郎	北村 直幸
西尾 尚士	三宅 泰雄	加藤 省吾

山本 繁生	岸 英雄	庄子 佳良
篠原 敦子	江川 準一	堀内 武彦
林 春樹	畑尻 隆司	佐々木慶市
酒井 一成		

#### (評議員)

田島 清允	河本 武彦	深崎 敏之
藤原 幹	石本 芳郎	林 孝治
西田 頼信	大川 博臣	栗本 元
松野 龍莊	梅田 博之	河野富士雄
国田 昌之	佐伯 正司	中村 陽一
大国 進	山崎 経男	古本 稔
渡辺 浩其	諏訪 惇	田中 博司
渡 義治	山木戸道郎	叶原 一然
井上 武彦	横田 守	先家 裕司
東 水豊	林 正夫	増本 光雄
原 徹	黒抗 昭夫	熊野 澄雄
貫名 徹	木村 静雄	森吉 努
熊野 眞	三村 保博	穴田 一善

田辺 裕善	中村 幸信	松枝 俊博
沖 清	二森 寛	堂本 高義
島村 誠	山下 江	松枝 茂樹
三宅 章文	吉村 圭司	石津 則昭
柴崎 雅雄	富田 恵治	藤川 雄司
松井 茂幸	宇佐川智久	久保田貴八郎
石井 良昌	檜原 一成	熊谷 宏
尼子 幸暢	筒井 直樹	下川 信宏
西村 昌浩	岡本 耕造	中野 賢治
井東 康三	丸吉 忠輔	山肩 満徳
緒方 直之	安本 芳朗	山田 英輝
内藤 貴明		

## 《事務局》

田中 佳樹	若宮 寿仁	近川 俊治
杉田 浩光	安竹 和彦	島本佳代子

## 《同窓大会世話人》

高校52回	田村 勇太	安本 芳朗
高校53回	大辻 健介	山田 英輝 ほか

## 議事及び審議の結果

議案の審議に先立ち、修道学園（中・高）同窓会及び修道学園同窓会連合会との合同幹事会を開催する旨の宣言がなされた。

大田 哲哉同窓会連合会会長代理から開会の挨拶があり、慣例により大田会長代理が議長となることが了承された。

## 議案

## 1. 平成20年度修道学園同窓会連合会収支決算について

事務局より、平成20年度修道学園同窓会連合会資金収支決算書について説明がなされた。収入の部は、分担金1,467,000円、預金利息81,071円、雑収入0円、事業基金引当特定預金からの繰入収入0円、小計1,548,071円となり、前年度繰越金17,587,639円を合わせると、収入の部の合計は19,135,710円となる。支出の部は、事業費365,400円、業務費239,167円（内訳：会議費89,236円、通信費62,689円、慶弔費60,000円、諸費27,242円）、特別事業費2,000,000円、その他の支出80,000円（内訳：事業基金引当特定預金への繰入支出80,000

円、名簿作成引当特定預金への繰入支出0円）予備費0円、小計2,684,567円となり、収入合計から差し引いた次年度繰越金は16,451,143円となる。支出の部の合計は19,135,710円となる。

次に貸借対照表についての説明が行なわれ、資産の部は事業基金引当特定預金7,816,875円、名簿作製引当特定預金506,086円、一般会計預金16,451,143円となっている。負債・正味財産の部は、正味財産が合計24,774,104円となっており負債はない。

続いて、船倉智雄監査より、証憑、帳簿、預金通帳等の関係書類を監査した結果、いずれも適正に執行、管理されていた旨の会計監査報告がなされた。

同窓会連合会決算は、全員異議なく承認された。

## 2. 平成20年度修道学園（中・高）同窓会資金収支決算について

事務局より、平成20年度修道学園（中・高）同窓会収支決算書について説明がなされた。収入の部は、入会金840,000円、終身会費1,960,000円、名簿売上代0円、預金利息169,072円、雑収入1,233,221円、事業基金引当特定預金からの繰入収入0円、名簿作製引当特定預金からの繰入収入0円、陶板画レプリカ売上代180,000円、小計4,382,293円となり、前年度繰越金24,085,836円と合わせると、収入の部の合計は28,468,129円となる。支出の部は、事業費1,543,200円（内訳：名簿作製費0円、激励費405,000円、同窓大会補助金200,000円、卒業記念品料556,000円、その他の事業費382,200円）、事務費636,245円（内訳：会議費218,918円、通信費128,842円、慶弔費151,500円、諸費136,985円）、その他の支出376,000円（内訳：連合会分担金280,000円、事業基金引当特定預金への繰入支出96,000円、名簿作製引当特定預金への繰入支出0円）、予備費0円、小計2,555,445円となり、収入合計から差し引いた次年度繰越金は25,912,684円となる。支出の部の合計は28,468,129円となる。

次に貸借対照表についての説明が行なわれ、資産の部は事業基金引当特定預金19,422,343円、一般会計預金は25,912,684円となっている。負債・

正味財産の部は、正味財産が合計45,335,027円となっており負債はない。

続いて平成20年度修道学園（中・高）同窓大会について松田弘担当副会長より報告があり、続いて同窓大会世話人田村勇太氏より平成20年度修道学園（中・高）同窓大会決算書についての説明がなされた。収入の部は、補助金200,000円、大会誌広告協賛3,480,000円、会員券裏面広告協賛150,000円、会員券売上2,490,000円、寄付金216,000円、預金利息2,810円、収入の部の合計は6,538,810円となっている。支出の部は、大会誌作成費2,109,450円、大会運営費2,568,172円、広告宣伝費297,780円、事務費108,025円、通信費150,220円、交通費183,527円、贈答品費17,519円、会議費426,434円、手数料77,385円、収入から差し引いた余剰金は600,298円で、平成21年度において本会計へ繰り入れる予定である旨の説明がなされた。支出の部の合計は6,538,810円となる。

続いて、船倉監査より、証憑、帳簿、預金通帳等の関係書類を監査した結果、いずれも適正に執行、管理されていた旨の会計監査報告がなされた。

中・高同窓会及び同窓大会決算は全員異議なく

承認された。

### 報告事項

#### 1. 修道学園（中・高）同窓会会員名簿発行について

修道学園（中・高）同窓会名簿第35号の発行について、会誌名簿委員長中村靖富満氏より、名簿作業スケジュール及び名簿掲載広告についての説明があり、引き続き、調査・作成にご協力をいただきたい旨の報告があった。

#### 2. 修道学園（中・高）同窓大会について 廣谷担当副会長からの報告

9月5日（土）18時からリーガロイヤルホテル広島で開催する旨の報告がなされた。

#### 3. 修道学園（中・高）同窓大会・支部総会及び同期会の開催について

##### 事務局からの報告

各支部及び同期会の開催について、報告がなされた。

以上



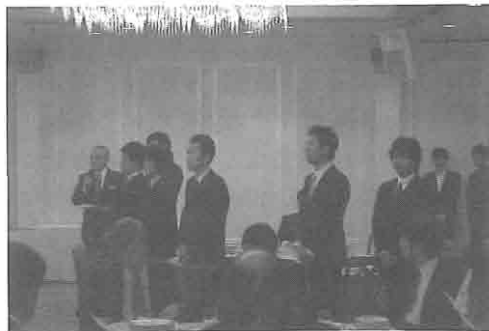
林理事長乾杯の御発声



川本明人広島修道大学学長近況報告



田原俊典修道中学校・修道高等学校校長近況報告



平成21年度中・高同窓大会廣谷清担当副会長と世話人

# 「'09修道学園同窓会関東支部のつどい」と執行部交替

野 崎 敬 二 (高19回)

「雨降りしきる1999年7月13日、活気を取り戻した関東支部は、総会に171名が集結、新役員が承認されシステムの再構築に着手。」と、同窓会報修道No.38の、〈支部便り〉に記事を書いたのが、当時事務局長の私でした。

それから10年後の2009年同月同日、東京ドームホテルにおける関東支部のつどいを開催し、これを機に幹事長としての職務をバトンタッチし、執行部が再編されます。

09年つどいは、講演にIBM大歳会長(19回)紹介に東北大岩佐教授(29回)から天空に移り、田原校長先生の受験結果報告と東大見学ツアー中心のご挨拶、ツアーの講師を代表して佐藤足利事件主任弁護士(19回)、例年お好み焼きコーナー提供のオタフクソース佐々木役員(39回)の紹介、早大チアリーディング、西尾監督(29回)作品アニメ放映、副島氏マジック(29回)、近藤氏(29回)校歌独唱と続きました。

11年間における私の事務局長(4年間)常任幹事、幹事長(5年間)を通しての軌跡と展望を述べます。

2000年に東京ドームホテルが完成し、つどい会場が「天空」となりました。しかし99年だけがプリズムホールで、キャパが限られ、しかも11年間で雨はこの年だけ。「天空」に移ってからの10年間、天候と500名前後の参加者に恵まれ盛会です。2,500名という名簿上で把握できている支部会員の約5分の1が、10年間に亘り参加というのは誇りです。

その理由を考えてみます。

関東支部再出発の99年、役員会にて「末尾9の年だから9のつく回が総会(つどい)の担当学年として、毎年輪番制とする」アイデアが採用されました。

このアイデアは、2008年より広島本部でも、大田会長のもと採用いただき、同窓大会参加者増に寄与したとの、謝意をいただきました。恐縮です。

大田会長には、本部・各支部会議を導入いただき、感謝いたしております。

10回生ごとの縦の連携が出来、若い世代から大先輩間での交流が、つどい担当準備および当日を通し、実現する訳です。しかも自分の担当年がわかりやすく、10年に1度の当番は、受け入れやすいと思います。

会議体制としては、各学年のすべてから常任幹事をお願いできなかったため、各学年から幹事が集結できるよう、学年幹事会を設けたことが、議論、議決を経ての情報の共有可能となりました。無論、まだまだ改善の余地はあります。

事務局長だった私が、末政事務総長(副会長兼任)より会計を任せられたとき、通帳に128万余円でしたが、現在600万円以上です。会員の方々のご協力もさることながら会計を伴った事務局は、弁護士・末政事務総長の富士法律特許会計事務所から弊社・アート・パル工房に移され、弁護士・江崎事務局長の銀座合同法律事務所に移転。次期は、弁護士・諏訪事務局長の森・濱田松本法律事務所になります。

事務局担当が、弊社以外、弁護士事務所という特色と、家賃相当や事務労力相当をボランティアとし、計上していないゆえの基金です。林会長お膝元の東京ドームホテルになにかと便宜いただいたことも特筆です。

参加者に一定の成果があり、基金も余力が出て来た訳で内容の充実に、展開していく必要があります。これが執行部交替の理由です。

今までの成果としては、上記のほか、学校からの動きを感知し、田原校長先生主導の下の東大見学ツアーに、協力することになりました。関東支部として、会場が東京ドームホテルになったことも貢献できたのでは?との思いと、講師陣を提供できたことです。

先輩からのメッセージにも、多くの著名な先輩を、母校に、紹介できました。

つどい前半部の、講演の講師、たとえば、三菱重工・佃会長（14回）、NTT・三浦社長（15回）、IBM・大歳会長（19回）といった方々に、支部と母校が連絡取り合い、中高生徒さんに直接話していただけると、夢が広がります。彼らにとって、受験だけでなく、職業ということ、社会に出て行くことを考察する窓口のひとつにはなる訳ですから。

母校へ奨学金として貢献できないか試みましたが、それには及ばないとのこと回答をいただき、実現しませんでした。

しかしこの取り組みは、内容を検討しつつ、いずれは実現できることが望ましいと、考えます。

文武両道を標榜する母校への支援を考えますと、

各クラブ活動への支援という形も、取り入れたいものです。

そもそも同窓会とは、どうあるべきか？

大学の同窓会の場合、多くの場合、会員相互の懇親と母校への事業寄与が、謳われています。事業寄与は、具体的には、施設更新、研究支援、募金、奨学金といったところですが、高校の場合は？ こと修道学園同窓会関東支部は、どうあるべきか？

これを、折に触れ討議検討しつつ、懇親以外に、何が出来るのか、次なる執行部そして会員の方々のご意見、行動に希望を託させていただきます。

次期幹事長の江崎事務局長（20回）、東（21回）・大利（25回）副幹事長はじめお世話になりました。

修道サロンご提供の菅久氏（8回）、情報の場・れもん屋の川本氏（18回）に感謝申し上げます。





## 第53回 (平成21年度) 修道医会総会の報告

修道医会副会長 (事務局長) 井内 康 輝 (高19回)

今年度の修道医会総会は、平成21年7月18日(土) ANAクラウンプラザホテル広島を会場として開催されました。午後4時半から評議員会、午後5時から総会を開き、平成20年度の事業報告、収支決算の承認、平成21年度の事業計画と予算の承認などを行った後、役員改選を行い、次期(第17代)会長として、高校14回卒の山肩俊晴先生が選出され、今後2年間の修道医会をリードしていかれることになりました。

総会恒例の特別講演では、2名の演者を招きました。ひとり、高校29回卒、岐阜大学大学院腫瘍外科学教授の吉田和弘先生で、“今、腫瘍外科医に求められるもの”と題する講演を、もうひとり、高校31回卒、広島大学大学院法医学教授の長尾正崇先生で、“神経剤の非コリン性毒性作用”



林正夫理事長挨拶



斉藤鉄夫環境大臣挨拶

と題する講演です。前者は最先端の消化器がんの治療法について、後者は地下鉄サリン事件で一躍有名となった神経剤の作用についてのお話で大変興味深いものであり、参加者を裨益するところが大きいものでした。

次いで午後7時より懇親会に移り、現会長の神辺眞之先生のご挨拶から始まり、来賓としてご出席いただいた林正夫修道学園理事長(県会議長)、土井洋二同窓会副会長、斉藤鉄夫環境大臣のご挨拶に次いで、修道中・高校長の田原俊典先生から、学園の現状を伺いました。大学入試成績のみならず、いわゆるクラブ活動も活発で、特に陸上部には全国レベルで優秀な成績をおさめる生徒もいるとか、嬉しい話題が多く、会場は大いに盛り上がりました。恒例となった表彰では、第11回学術奨励賞に仁保誠治先生(高校39回卒、国立がんセンター東病院内科で肺癌治療を研究)、第11回社会功労賞に新田康郎先生(高校11回卒、地域小児保健の向上に貢献)、第2回文化功労賞に斎藤泰三先生(高校4回卒、写真分野で数多くの業績)が選ばれ、賞状と銀盃が贈呈されました。旧中36回卒、岩森茂先生のご発声による乾杯直後に、来賓としてご出席予定であった岸田文雄衆議院議員も到着され、一言ご挨拶をいただきました。

昨年12月には学生部会が発足し、現在50名が属しています。まず広島大学医学部に1~6年生として在籍中の学生が集まり、今年に入ってから、他大学医学部へ進学した学生にも参加を呼びかけ



田原俊典校長挨拶



学生部会の挨拶

つつあります。現在、全国的に地域医療を担う医師不足が呼ばれていますが、広島県も例外ではありません。医師をめざして勉学中の修道健児が将来の広島県の医療を支える人材となってくれる様、修道医会は応援してゆきたいと考えています。修道医会には広島県内の主要な病院の院長・副院長クラスの先生が数多く属しておられますので、この修道医会への参加は、学生にとっては将来の進路にかかわる人の繋がりを作る上でも役立つであろうと考えられます。

懇親会の終了は例年の通り、校歌斉唱と旧中36回卒、井上圭太郎先生の万歳三唱で締めくくり、本年10月のゴルフ大会、12月の学生部会などでの再会を来して散会致しました。



懇親会風景

# 第15回江能修友会総会

平成21年6月28日(日) 於：広島アンデルセン  
胡子雅信(高41回)

平成7年7月7日に発足しました江田島市(江田島・能美島)出身および関わりのある者を会員とする江能修友会も15年目に入りました。このたびは修道学園同窓会より、公私ともご多忙の中、大田哲哉会長にご出席いただき、広島アンデルセンにて総会および懇親会がおこなわれました。

懇親会では、梶川進先生(旧中29)が昨年、ご夫妻でいかれた豪華客船での世界一周旅行中に起こった珍事を交えた楽しいお話や中能延幸先輩(高4回)が最近趣味としてはじめましたマジックショーもあって大いに盛り上がりました。

最近の総会は広島市で行われていますが、来年はもう一度、島でやってみたいというご意見もあり次回は江田島市で行う予定です。

最後に参加者一同が輪になり肩を組みながら、

校歌を歌い、来年の再会を約束しました。

## 写真の人物名

後列左より：森井宏樹(高41)・宇根川満(高20)  
山下江(高23)・西平克宏(高15)  
宇根政徳(高11)・胡子雅信(高41)  
中列左より：橋本慎太郎(高48)・佐原捷三(高10)  
下木一晃(高6)・山邊繁(高5)  
森本昭男(高1)・坂本兆(高3)  
丸吉茂明(高8)・大石秀昭(新中3)  
前列左より：中能延行(高4)・浜井貴人(高20)  
北岡敏彦(旧中39)・大田哲哉会長・  
梶川進(旧中29)・山田敏行(高3)  
大石武敏(高2)



支部だより

# 広島市修道会

広島市修道会 会計・幹事 水口 直也 (高46回)

去る平成21年7月10日、メルパルク広島「平成」にて平成21年度広島市修道会総会（第55回）が開催されました。濱本康男会長の挨拶で始まった総会・懇親会は、議員顧問の方やOB顧問の方を交え、職務に係る意見交換や、昔話、他愛もない冗談など、和やかな雰囲気の中、無事とり行われました。

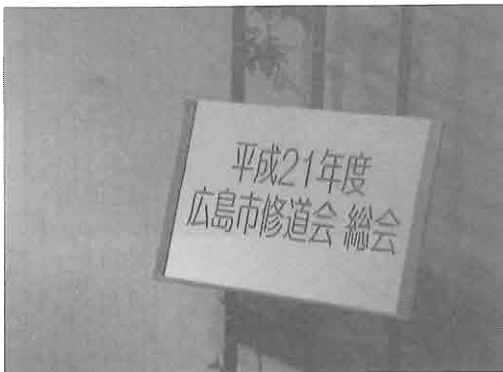
また、母校より来賓としてお越しいただいた田原校長より、日頃接する機会のない母校の様子など、貴重なお話を聞き取る機会に恵まれるなど、予定していた2時間があったという間に過ぎ去り、70名近い参加者一同、大変充実した時間を過ごすことができました。公私ともご多忙中の折、ご出席いただきました田原校長先生には、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、修道の卒業生と言えば、個性的な恩師の方々に囲まれて育ったためか、非常に個性的な方が多く、卒業生それぞれにとっての修道生活の思い出も多種多様で、修道卒業生のイメージを一括りに表現することは大変難しいのですが、最近、卒業生との繋がり場において、卒業生同士の妙な共通点を感じることがありました。

社会人になると、さまざまな場面において、さ

まざまな関係者から、良くも悪くもいろいろと評価されるものですが、自分自身への評価について、改めてどういったポイントが着目されているかを考察してみると、母校修道で出会った人々の影響や、染みついた修道カラーといった部分について、着目されることが実に多いことに気付かされました。積極性を褒められ、猪突猛進を窘められ、はたまた妻に下品な所作を怒られ・・・、思い返せばすべて修道時代に形成された人格のような気がする・・・。周囲から着目される個性への母校修道の影響を感じた経験、こうした話に「あるある」とご賛同いただける卒業生が非常に多く、今回の宴席においてもこの話題で盛り上がりました。みなさんも、是非周囲の卒業生に聞いてみてください。

職場支部の同窓会だけでなく、例年行われます同窓大会や、所属していた班活動のお手伝いなど、母校との繋がり場は、こうした卒業生の個性を形成する「修道カラー」を再研鑽する絶好の機会だと言えます。すっかり染みついてしまっている修道カラーを前向きに誇りに思いつつ、今後とも母校発展のために微力ながらお手伝いさせていただきます。



# 四期会総会

皆川孝一(高4回)

われわれ四期生は昭和27年に高校を卒業しました。前年に講和条約が調印されたばかりで、戦後の混乱から脱しきれていない時代でしたが、紅顔の美少年たちは元気に母校を巣立ちました。

その時から数えて57年、世間の荒波の中で力一杯奮闘し、後期高齢などと呼ばれる年齢に達しました。

6月第二土曜日は年に1度の総会の日、今年は6月13日17時に紙屋町のメルパルクに集合しました。

この総会も数えて37回目、長い間毎年継続して開催できるのは、万年幹事を務める菊田、木下、河野、内藤各君と在広世話人諸君の熱意の賜物です。

今回は若干趣向を凝らし、はじめに昨年復元完成した加藤友三郎の銅像前に集合しました。加藤友三郎は広島県出身で初の総理大臣となった人で

修道の大先輩であり、四期会としても大先輩の偉業を讃え、昨年、銅像復元募金に協賛いたしました。

緑陰に立つワシントン軍縮会議首席全権の姿の銅像を感慨深く仰ぎつつ、一同揃って記念写真を撮影しました。

その後メルパルク安芸の間に勢揃い、恩師川野観治先生の元気なご発声で乾杯、出席者41名は元気な顔合わせを喜び合いました。まずは中能延行君のプロ級?の手品に一同大歓声、溢れるばかりの若さに包まれます。

サッカー全国優勝時の名選手中川進君が病を克服して出席し、来年ワールドカップへ出場する日本代表チームの力強い見通しを語り、いよいよ熱気が盛り上がる中、恒例の校歌斉唱にて賑やかに打ち上げました。



奥 中 花 原 酒 齋 川 三 河 上 大 菊 皆 上  
 本 村 村 原 田 井 藤 野 浦 野 野 島 田 川 野  
 (富) (輪) (公) (先生) (高) (広) (浄)



皆	木	行	大	重	竹	稻	土	川	中	火	中	奥	上	原	毛	三	菊	
川	下	友	島	富	中	富	井	野	村	浦	能	本	野	田	利	門	吉	田
							酒	先	(				大	上		重		
							井	生	寛)				下	野		見		
								川	中		和			鍵	谷		仙	
伴	宗	伊	合	花	内	中		川	川		田			崎	口		波	
	像	藤	原	輪	藤						(							

四期会記念 於：広島中央公園（加藤友三郎銅像前）  
平成21年（2009）6月13日

# 25 回 同 期 会

三 輪 裕 久 (高25回)

我等、高校25回卒業生は卒業後、節目となる15年、25年と集まり、今年の3月21日(土)10年ぶりの同期会を持ちました。今回は卒業して35年ということで、母校を訪れるという企画が実現しました。約30名がこの企画に参加しましたが、まずは集まった面々、55歳ちかくということで誰が誰なのか、なかなか分かりかねる様子でした。昔の写真を片手にちょっとした面影から「ああ、お前か」などと気づく次第でありました。母校においては休日にも関わらず事務職の方々に案内していただき校内見学をしました。本当に感謝いたします。35年前の学校とは随分と様変わりし、我々がいた頃のものと言えば「中学正門」だけなのかもしれません。(写真にあるように中学正門前では、頭の薄くなった、あるいは白くなった面々が昔を顧みています。)  
「夏は暖房、冬は冷房」だった時代とは違い空調設備の整った校舎や、また、カレーうどんに逸早く駆け付けていた食堂と比べるとメニューも施設も驚くばかりのレストランなどを見学いたしました。(昔のうどんの「いっばーい」

には話の花が咲きました。)敬道館では、昔の班員の名札が今でも架けられている所で、かつての柔道班員はなつかしように指差していました。(写真をご覧ください。)約1時間の校内見学を、それぞれが昔の学び舎に思いを馳せながら感慨深く廻りました。

その後、本通のアンデルセンに場を移してよいよ同期会となりました。学年主任の保澤先生、担任団の街道先生、林先生、田中先生、木元先生、吉崎先生、藤澤先生に臨席していただき、高3のときのクラスごとに並べられたテーブルを囲み多くの同期生が集いました。会に先立ち、3名の担任の先生および数名の物故者となった仲間に黙祷をささげました。人生も50年を過ぎると別れも多くなって来るのだとしみじみ感じられました。広島のみならず全国からこの会のために駆け付けた面々と昔話に花を咲かせ、また今現在の近況を伝え合いながら本当に楽しい時を過ごしました。

今後は10年後と言わず、もっと度々集まることを念じて会を終えました。



特別寄稿

# 山田養吉先生の「丙寅日記」を読む（その三）

（慶応二年六月十六日～慶応二年七月七日）

修道学園史研究会 島 眞 實（高校7回）

山田養吉先生の「丙寅日記」は慶応二年六月朔日から始まっている。「丙寅日記を読む」（その一）では、慶応二年六月十五日までを紹介した。（その二）では、六月十六日から七月七日までを紹介した。今回は、慶応二年八月十六日までの日記である。この「丙寅日記」はこれで終わっている。

この日記に記されている内容で、第二次長州戦争に関する記述の多いことが特徴である。先生にとってこの長州戦争は重要な意味をもっていたと思われる。現実には自分の目で見られたこと、戦争の生々しい状況を聞かれたこと、それらが克明に記されている。この日記は長州戦争に関する重要な資料の一つであると言ってもよいだろう。

（「他日の参考に供す」と断って、七月七日に記述している。「山田養吉先生の『丙寅日記』を読む」その二で、六月十六日、廿日、廿二日、廿三、廿五日については、記述がある。それらを記した後に得られた情報を補足されたものである。）

なお、原文には句読点はないが、読みやすいようにとの思いから、句読点を施している。

日記の記述内容の理解のために第一次・第二次の長州戦争の経緯を参考のため簡単に示す。

**文久3年** (1863) 8月18日の政変 長州藩 御所警備の任を解かれる。

**元治元年** (1864) 7月19日 禁門の変（蛤御門の変）  
・尊王攘夷 長州 ・公武合体 会津・薩摩

7月24日 長州追討令

8月21日 吉川経幹つねまさと浅野式部 草津村 海蔵寺で会見

11月14日 広島国泰寺 毛利本家三家老（益田右衛門介・福原越後・国司信濃）の首実験

11月18日の防長総攻撃は無期限中止の命令

11月19日 幕閣、吉川経幹に 1. 毛利敬親自身の謝罪状提出 2. 山口滞在の5卿を他藩へ

移す 3. 山口城の破壊 の裁許を告げる。

12月27日 従軍諸藩に解陣の布達 第一次長州戦争終わる

12月 高杉晋作ら奇兵隊を編成 保守派打倒を目指し、下関で挙兵 二ヶ月にわたる内戦→改革派が藩政を掌握 [武備恭順へと転回]

**慶応元年** (1865) 4月 前尾張藩主徳川茂徳を征長先鋒総督に任ず。（のち和歌山藩主徳川茂承もちむねに代わる。）先鋒に、彦根藩主井伊直憲、高田藩主榊原政敬を命じる。

5月16日 江戸出発 京都へ

9月16日 英・仏・蘭の連合艦隊 兵庫沖に 兵庫開港要求

慶応元年(1865) 9月21日 長州再征の勅許

慶応2年(1866) 1月21日 薩長同盟成立

2月 浅野長訓ながみちは老中小笠原長行ながみちに長州に対する処分を寛大にと建言

3月23日 年寄辻将曹まさともを上坂させ、老中板倉勝静に寛大な処置を建言 目的達せず、年寄野村帯刀たてわきとともに謹慎を命じられる。

4月 将軍 徳川家茂いえもち 勅許を得て長州処分を決定  
1. 十万石の削封 2. 毛利父子の蟄居  
3. 三家老の断絶 激徒首領の拘引

5月10日 幕閣 野村帯刀・辻将曹 謹慎処分を解く。城中行動激化の恐れ

5月11日 老中小笠原長行ながみち、長州に処分を執達。裁許を奉命しなければ征討すると告げる。

\* 6月5日 幕府 6月6日をもって討ち入りの期日と決定

5月15日 浅野長勳ながこと、藩士を集め、幕閣に対する行動激化を抑える。

5月18日 学問所会合の有志など55名連署で建白書提出（征長の名分なし→出兵辞退）

6月2日 広島藩、有志の動きをおそれ、小笠原長行、九州方面監軍として小倉へ。



6月3日 広島藩、国境までは出陣するが、討ち入りはしないと届け出る。

6月4日 広島藩、征長の名義が分明的でない限り出陣しないと申告。出兵拒否

6月5日 征長先鋒総督徳川茂承もちつぐ(和歌山藩主)、光明丸で広島到着

6月6日 副総督老中本莊(松平)宗秀(伯耆守・丹後宮津侯)小笠原長行にかわり広島到着

6月7日 幕府軍艦、周防国大島郡を砲撃。第二次長州戦争開戦(大島口の戦)

6月14日 藝州口 開戦 彦根藩・高田藩兵、小瀬川(木野川)の戦で敗走

6月15日 長州、幕府軍の本拠地大野(西教寺)の攻略を目指す。幕府軍、紀州藩水野大炊頭おおいのかみ忠幹ただもとを派遣(16日 石州口 開戦)(17日 小倉口 開戦)

6月19日 長州兵、二手に分かれて進撃。一手→四十八坂へ もう一手→大野を見下ろす高台から戦闘は20日の未明まで続く。長州軍 四十八坂を抜けず小方まで撤退

6月25日 長州軍はもう一度大野攻略を計るが、撃退される。藝州口は以後、しばらく膠着状態が続く。

6月25日 副総督伯耆守松平宗秀、拘留していた長州の穴戸備後之介、小田村素太郎を独断で放免

7月4日 先鋒総督徳川茂承もちつぐ、副総督松平宗秀の独断に怒り、辞表提出。幕府上層部で内訌が始まる。

7月15日 幕閣、大坂城で松平宗秀を糾弾。老中を罷免。10月には、蟄居謹慎を命じる。

7月17日 長州軍、広島藩二川主税ちから・林孫太夫隊に幕府に歎願書提出のためとして、間道の進軍を要請した。広島藩兵、廿日市以東に撤兵 長州兵、後方松ガ原村方面に撤兵

7月20日 幕兵に引退の命が出る。大垣・彦根・高田藩の諸兵、広島または廿日市以東に退却。長州兵の廿日市以東進撃阻止→広島藩は年寄石井修理、廿日市の民家を焼却→長州兵の進路を阻止

7月20日、將軍家茂いえもち、大坂で薨去。(幕府、これ

を一ヶ月秘す。8月20日、発喪)

7月29日 徳川慶喜よしのぶ、徳川宗家相続の勅許が下る。孝明天皇、慶喜に長州再征の勅許

7月16日 広島藩 西本・植田乙次郎を長州に派遣。休戦の周旋に乗り出す。交渉成立。西本・植田往復に10日かかる。この間、長州兵 友田村条約の違約→広島藩領内に進入

7月28日 長州軍、大野攻略を目指す。攻防戦は、7月28日・29日、8月2日(玖波攻防戦)、8月7日(藝州口最大で最後の攻防戦)の三波にわたって展開

8月14日 慶喜、止戦の詔勅を願い出る。

8月28日 総督徳川茂承もちつぐより征長中止の勅書を伝達、合わせて長州側に退却を通達

9月2日 宮島大願寺で休戦会見 幕府側 勝安房あ(辻 将曹 植田乙次郎 同行) 長州側 広沢兵助 春木強四郎(井上 馨) 高田春太郎(御堀耕助)

9月19日 幕府から正式の征長中止令が出される。慶応3年(1867)年2月 広島領からの長州軍全面撤退

慶応二年(1866) 山田養吉先生 34歳(数え歳) 学問所寄宿寮塾頭

六月十六日

長兵以舟師而出于石州濱田之領高津。先是濱田主松平右将監福山主阿部主計頭陣于益田右衛門介旧封地。地有関柵。濱兵守之。長兵乃以三十余人来襲。破関柵、与濱兵戰。良久而勝敗未決。長兵使人言曰、請明日午時復会戰、以分雌雄。乃交退。明日巳牌、濱福未設備長兵掩至上于尾屋。以砲下射當中二兵大擾亦放砲而防之。然、長兵以尾屋為楯、不損一人。二人兵乃大礮而燒屋時、我兵在下風、煙焰掩四面不弁咫尺。二兵不屈急擊長兵。長兵敗走。二兵追之。陷于伏而終大敗。既於時幕府軍監三枝刑部被捕其一人戰死云。濱兵走歸于濱田。福兵亦或自吾山県郡八幡原走于今津。於時福山公在今津故也。長兵既奪益田陣于此。大振民。濱兵欲燒益田逐之。長兵防禦甚務。濱兵終不能燒云。

書き下し

長兵船師を以て石州濱田の領高津に出づ。是よ

り先、濱田主松平右将監、福山主阿部主計頭益田右衛門介旧封地に陣す。地関柵有り。濱兵之を守る。長兵乃ち三十余人を以て来襲す。関柵を破る。濱兵と戦ふ。しばらくして勝敗未だ決せず。長兵をして言はしめて曰く、明日午時復た会戦せんことを請ふ。以て雌雄を分けん、と。乃ち交も退く。明日巳牌濱・福未だ備を設けざるに、長兵上に至り尾屋を掩う。砲を以て営中に下射す。二兵大いに擾れ、亦放砲してこれを防ぐ。然れども長兵尾屋を以て楯と為し一人も損せず。二兵大敵して屋を焼く。時に我が兵下風に在り。煙焰四面を掩ひ咫尺を弁せず。二兵屈せずして長兵を急撃す。長兵敗走す。二兵之を追ふ。伏に陥りて終に大敗す。時に幕府軍監三枝刑部、其の一人を捕らえられ、戦死すと云ふ。濱兵濱田に走帰す。福兵も亦吾が山県郡八幡原より今津に走ぐ。この時福山公今津に在る故なり。長兵既に益田を奪ひ、此に陣す。大いに民を振ふ。濱兵益田を焼かんと欲し、之を逐ふ。長兵防禦甚だ務む。濱兵終に焼くこと能はずと云ふ。

## 語句

**船師** ①水軍。海軍。②船の運航を指導する人。

ふなこ。舟人。船頭。 **濱田主松平右将監** 濱田藩主松平右将監武聡 (1842～1882) 6万1千石領地。藩兵 **福山主阿部主計頭** 福山藩主阿部主計頭正方 (1848～1867) 11万石領地。藩兵1650人。封地 諸侯・大名の領土。**雌雄を分けん** 戦って、勝敗を決めよう。**尾屋** 「尾」山の裾野の延びた所。ふもと。山麓。「屋」いえ。家屋。「尾屋」山裾の建物。**営** 兵営。陣屋。陣営。**下風** かざしも。**咫尺を弁せず** 一寸さきも見分けがつかない。「咫尺」非常に短い距離。すぐそばまで近づく。

**軍監三枝刑部** 「軍監」軍事を監督する人。 **振ふ**

①ゆすって動かす。②奮い起こす。③人々をおそれさせる。④元気づける。**逐う** ①おいつめる。②追い払う。③ひとつひとつとつめていく。

## 口語訳

長州兵は軍船で石州濱田の領地、高津に向けて出撃する。これより先、濱田藩主、松平右将監、福山藩主、阿部主計頭は、益田右衛門介の旧封地

に陣を置いた。この地に関柵が有る。濱田藩の兵はここを守備している。長州の兵がたちまち三十余人で来襲する。関柵を破る。そして濱田藩の兵と戦う。しばらく戦うが勝敗はいまだに決しない。長州が言うことに、明日正午また戦を交えることを願う。それで雌雄を決しよう、と。そこでお互いの兵は退いた。翌日、午前10時ごろ濱田藩兵・福山藩兵が未だ準備を整えないうちに、長州兵が上手に至り、尾屋に眼下にとらえる。大砲を以て陣営の中に向かって射ち下ろす。浜田兵と福山兵は大いにみだれ、また大砲を放つ。しかしながら、長州兵は山裾の建物を以て楯として一人も失うことはなかった。浜田兵・福山兵は大砲を撃ち建物を焼く。ちょうどその時、わが軍の兵は風下にいた。煙焰が四面を掩って一寸先も見分けがつかない。浜田・福山の二藩の兵はそれに屈することなく、長州兵を急撃する。長兵は敗走する。両藩の兵は長州兵を追撃する。伏兵に陥れられて大敗を喫する。ちょうどその時、幕府の軍監である三枝刑部が部下の一人を捕らえられ、戦死した、と言う。浜田兵は浜田に逃げ帰る。福山兵もまた或いは山縣郡八幡原より今津に逃げる。この時、福山公が今津に居たからである。長州兵はすでに益田の地を奪い取り、ここに陣を置き、大いに民を恐れさせた。濱田兵は益田を焼き払いたいと思ひ、長州兵を追い払う。長州兵は防禦に甚だ務める。それで濱田兵はついに益田を焼き払うことができなかつた、と云うことだ。

## 参考

「広島市史」より

「6月16日、松山侯松平隠岐守勝成の兵、長防兵と大島郡清水・源明・笛吹の三嶺に戦ひて敗れ、佐久間大学戦死し、遂に八代島を棄てて退く、是日長州兵石州路に進み、益田村に至る、松平右近将監武聡が兵防戦し、阿部主計頭正方が兵赴き援け、利あらずして退く、幕府軍目付三枝刑部戦死す。」

同二十日

伯州兵大破長兵。初長兵三十人來于吾津田村。欲構壘於村之西北二山之間小丘。伯州兵聞之而申牌引幕兵別手隊者而撃之。先伏兵于二山之外而後

発砲急攻之。長兵亦防戦。伏起于後長兵而長兵顧而走。我兵急攻之。敵上于小丘而防之。是以幕兵別手以短兵迫于之、斬二十有八人。於時長兵復別陣于村之東南西福寺。伯州兵復擊之。敵拋于寺後之山林而防之。伯州兵放大礮偶射彼之所設之地雷火。敵兵頗乱。我兵復放火山麓民屋。火遂焼山林。敵兵不能支而敗走。悉委器械糧食而去。斬首之外倒山林者、不知数云。

書き下し

伯州兵大いに長兵を破る。初め長兵三十余人吾が津田村に来たる。壘を村の西北二山の間の小丘に構へんとす。伯州兵之を聞いて申牌幕兵別手隊なる者を引き、之を撃つ。先に二山の外に伏兵して、後砲を発し、之を急攻す。長兵亦防戦す。伏兵、長兵の後ろに起きて長兵顧みて走ぐ。敵小丘に上りて之を防ぐ。是を以て幕兵別手短兵を以て之に迫り、二十八人を斬る。時に長兵復た別に村の東南西福寺に陣す。伯州兵復た之を撃つ、敵後ろの山林を抛にして之を防ぐ。伯州兵大礮を放ち、<sup>たまたま</sup>長州兵が設置した地雷火を射す。敵兵頗る乱る。我が兵復た山麓の民屋に放火す。火遂に山林を焼く。敵兵支える能はずして敗走す。悉く器械糧食を委て去る。斬首の外山林に倒れたる者、数を知らず、と云ふ。

語句

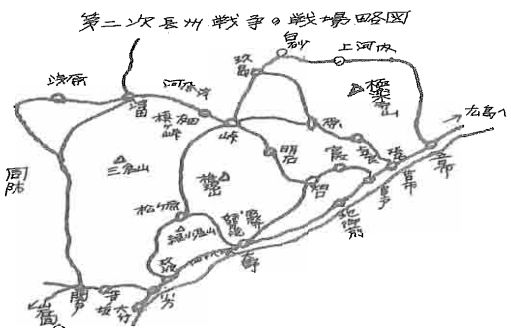
**伯州** 伯耆の国（鳥取県西半部）の別称。**津田村**

江戸期～明治22年の村名。安芸国佐伯郡（もと佐西郡）のうち。広島藩領。蔵入地・給地が入り交じる地。慶応二年長州戦争では十王堂に関門が設けられ、槇ガ峠が激戦地となった。石州津和野街道の津田宿が設けられ、津和野藩大森銀山役人の往来に備えられた。（「角川地名大辞典」）

**壘** とりで。石や土を積み重ねてつくる臨時の小城。**別手隊** 別に設けた部隊。別隊。**短兵** 短い武器。弓矢に対して刀剣を、長い矛や槍に対して短い手槍などをさす。そのような武器を持って戦う兵士。**大礮** 大砲。「礮」（ほう）いしゆみ。石をはじき飛ばす武器。のち、大砲もいう。

口語訳

伯州兵が大いに長州兵を破る。始め長州兵は三十人で津田村にやって来た。砦を村の西北の二つの山の間の小さな丘に築こうとした。伯州兵はこの情報を得て、午後4時ごろ幕府兵の別部隊なる者を引き連れて、これを攻撃した。先に二山とは別の場所に伏兵を配置し、後に発砲して攻撃を行う。長州兵もまた防戦する。伏兵が長州兵の背後に立ち上がると、長州兵は振り返って敗走する。我が藩兵がこれを攻撃する。敵は小さな丘に上ってこれを防ぐ。そこで幕府の別部隊は刀をもってこれを追って、二十八人ばかりを斬る。時に、長州兵はまた別に村の東南に在る西福寺に陣を構える。伯州兵は大砲を放ち、たまたま長州兵が設置した地雷火を射撃した。敵は頗る混乱する。わが藩兵はまた山麓の民家に火を放った。火が遂に山林を焼く。敵兵は支えきれないで、敗走する。悉く器械や糧食を捨てて逃げ去る。斬首のほか山林に倒れた者は数知れずと言う。



同二十二日 二十三日

夜穴戸備後介・小田村素次郎至于閤老伯州之寓居。三十一日（注：二十三日の誤記か）吾君使植田乙次郎享之。

書き下し

夜穴戸備後介、小田村素次郎、閤老伯州の寓居に至る。二十三日、吾君植田乙次郎をして之を享せしむ。

語句

**穴戸備後介** 長州藩士。前名は山県半蔵、後に穴戸璣と改称。第二次長州戦争に際し、家老穴戸備前の末家格となり、自ら起草した長州藩の正当性

を主張する「長防臣民合議書」を携えて再三わたり来広し、幕府の問罪使と応接するが、慶応二年五月に小田村素次郎とともに拘留される。（「広島県立文書館資料集5」）**小田村素太郎**（そたろう かとり）（楯取素彦）明治に入り、各県令を歴任、元老院議員。宮中顧問官。貴族院議員。吉田松陰の義弟。松陰の妹（吉田家二女、ひさと結婚。寿、死後四女文（久坂玄瑞と結婚していたが玄瑞の死後）と結婚。

**関老伯州** 松平（本荘）伯耆守宗秀（1809～1873）。丹後宮津藩藩主。7万石。幕府老中（元治元年）。慶応二年五月二十八日、小笠原長行に替わり、征長総督紀州藩主徳川茂承を補佐して軍務を指揮することを命じられて、広島に入る。**寓居** 仮に身を寄せること、またその住居。かりずまい。関老松平伯耆守宗秀の宿陣は、家老浅野守之進の屋敷であった。**植田乙次郎** 広島藩士。のち与右衛門と称す。安政五年（1858）に用達所詰となり、以降国事周旋に尽力。元治二年（1865）郡廻、慶応二年（1866）勘定奉行。明治元年（1868）五月「役人帖」では馬廻組、浅野造酒当支配。160石。（「広島県立文書館資料集5」）**享** ①神や客にご馳走をしてもてなす。②うける。供え物や祈りを素直にうけ入れる。また、もてなしをうける。

口語訳

夜、穴戸備後介と小田村素次郎とが関老伯州の寓居にやって来た。二十三日、吾が君は植田乙次郎にこの二人をもてなすようにと命じられた。

【参考】

関老伯州は、戦局が芳しくなく、拘禁中の長州藩家老穴戸備後介および小田村素太郎を独断で釈放して和平工作を行ったため、大坂に召喚され、老中を免職となった。

廿四日

寺尾生十郎面于之。

書き下し

寺尾生十郎之に面す。

語句

**寺尾生十郎** 広島藩士。文久三年用達所詰となり、年寄辻将曹のもとで用務に参画。慶応二年（1866）側詰次席。明治元年五月「役人帖」では馬廻組、浅野造酒当支配。120石。（「広島県立文書館資料集5」）

口語訳

廿四日 寺尾生十郎が穴戸備後介、小田村素次郎に面会する。

廿五日

二子帰于長。使吉田兼次郎送之。植田子送之。立野君亦行。然其所以然者、及其所以返之名、毫不可聞也。茲日家大人贈書家大兄。今治藩欲納和解于幕長之間。其国老某其辞曰幕之所為有不理而長亦不能無失。彼此皆不是而徒乱天下無為也。和之不如為勝云。近頃自天子之公族氏某尊公使人告我芸曰貴国之為所幕大疑。貴国之与長通早追長兵而不明。其不通則偏害不測。近頃捕海賊五名。家大人受命而治之則皆尊王攘夷家非為賊之人。蓋英雄之惡幕政之暴。而暫託于此。而待時者也。

書き下し

二子長に帰る。吉田兼次郎をして之を送らしむ。植田子之を送る。立野君も亦行く。然れども然する所以の者、及び之を返す所以の名、豪も聞かざるなり。この日家大人、書を家大兄に贈る。今治藩幕長の間には解を納めんと欲す。某国老某、其れ辞して曰く、幕の所為無理有りて、長も亦失無きを能はず。彼此皆是ならずして徒に天下を乱し、無為なり。之を和するは勝を為すに如かず、と云ふ。近頃天子の公族氏某尊公、人をして我が芸に曰はしめて、貴国の所為幕、大に疑ふ。貴国の長と通じ、早く長兵を追ひて不明なり。其れ通じざれば則ち偏に害は不測なり。近頃海賊五名を捕ふ。家大人命を受けて之を治すれば則ち皆尊王攘夷家、賊の人爲るに非ず。蓋し英雄の悪、幕政の暴。而るに暫し此に託す。而して時を待つ者なり。

語句

**吉田兼次郎** 広島藩士。慶応二年に使番。明治元年（1868）5月「役人帖」では馬廻組、浅野造酒

当支配。360石。(「芸藩輯要」) **立野** 立野一郎。用達所歩行頭。**毫も** ちつとも。すこしも。**失**

やり方、方法、判断などのあやまり。過失。失敗。**不明** ①あきらかでないこと。はっきりしないこと。また、そのさま。不明瞭。不分明。②物事を見抜く力が足りないこと。才知が足りないこと。道理が行われないこと。**治** ①おさめる。うまく調節する。②おさめる。うまく調整する。③おさめる。政事を行って世の中をうまくおさめる。④おさめる。刑を決める。罰を決めて罪人を取り締まる。⑤おさめる。なおす。手を加えて病気をなおす。⑥おさまった状態。「乱」に対して。⑦おさまる。世の秩序が正しくおさまる。**蓋し** ①ひよっとすると。もしかすると。②思うに。③そもそも。**尊王攘夷** 王室を尊んで夷荻をはらいのけること。幕末の反幕政治思想で、もともと尊王論と夷荻論は別々の思想であったが、幕藩体制の矛盾、激化と対外危機とによってと天皇の絶対化と排外主義が結合し、特に水戸学によって鼓吹され、やがて王政復古に至る幕末政治運動の大きな潮流となった。(小学館「精選版 日本国語大辞典」)

#### 口語訳

(宍戸備後介・小田村素太郎) 二氏が長州に帰還する。(閣老は、広島藩に命じて) 吉田兼次郎に二人を(長州に)送らせた。植田氏も之を送る。立野君も亦行く。しかしながら、幕閣がそのようにする理由及び二人を放免する名分を少しも聞き及んではない。この日、父上が書状を兄上に贈られる。今治藩が幕府と長州の間で和睦をするように願う。某藩の老某がそのことを辞退して言うことに、幕府の為すことには理の通らぬことがあり、長州も亦落ち度がないとすることはできない。幕府も長州もどちらとも皆認でず、いたづらに天下を乱し、何らなすところがない。この二者を和睦させるにはどちらが勝利を得るにこしたことはない、という。最近、天子の皇族の方で、某尊公が人を介してわが藝州に対して言わせたことは、あなたの国のしていることを幕府は大いに疑問を抱いている。あなたの国が長州と誼を通じていて、早くから長州兵を追いかけているのは理解できない

い。そもそも誼を通じていなければ、すなわちひたすら害は予測できない……という。

近頃、海賊5名を捕らえた。父上が命令を受けて、これをとり調べ、詰問すれば、すなわち皆尊王攘夷を唱える者であり、賊の徒ではない。考えてみるに、英雄とされている人の悪、幕府政治の暴挙、だが暫くはこれに託して、時を待つ者である。

#### [参考]

「広島市史」より

「是日 二十五日 国老松平伯耆守は宍戸備後介・小田村素太郎を放還す、是より先き、芸藩は屢々小笠原閣老に建言するに、両使拘執の不可なるを以てせしが、同閣老遂に此れ皆納れず、去りて小倉表に赴くに至り、閣老松平伯耆守代わりて副総督と為る、是を以て芸藩執政野村帯刀は松平閣老に使臣拘執の不可なるを論し、之を放還せん事を勤む、同閣老は広島に在りて、開戦以来幕軍の勢振るはざるを見、止戦を謀るの意あり、乃ち両使を放還して大膳父子より再び謝罪の歎願書を出さんことを密約せしむ、両使陽に之を諾して、退く、是に至り松平閣老は総督紀伊中納言に謀らず、手書を備後介に附与して、帰国を允許し、芸藩に命じて送還せしむ、」

同廿五日

長兵三面並進。官軍撃而走之。初長兵茲日寅牌擧号火至于辰牌。長兵乘二兵船上于大野之南岸丸山。大垣兵禦之。官軍歩兵隊者爲後軍時、又長兵自西北松原之路進而向于滝山。其兵或六七百人、或如千人。其多少不可弁。其兵皆大鬪而進。紀藩国老水野大炊守及官軍別手隊放大礮而禦之則長兵忽然隱復忽然見而放砲。方其妙如神。水野氏伏兵于滝山。山上陶全姜之城墟而交戦。傾刻長兵又別自大道四十八坂進。紀兵復禦之。長兵二面一自北、一自西而漸迫于山下、則紀伏發而放大礮而下射之。二面之長兵窘而敗走。蓋松原之兵長之全軍而其餘則彼之游兵而已。南岸之兵亦走。抑紀兵之制勝也、水野氏之功爲多。水野公親戦放砲而斃敵十二三名。又其臣有前日旬九日之戦有功而所賜三百石之者。堀野六郎者復能戦是以長兵大乱然。彼此頗有死傷

云。紀兵既帰。欲茲夜直衝玖波之巢穴。議論紛々堀野六郎頗主張之。終決于明日而至于今日 尚未進也。初七日記。

### 書き下し

長兵三面並進す。官軍撃ちて、之を走らす。初め長兵この日寅牌号火を挙げて辰牌に至る。長兵二兵船に乗り大野の南岸丸山に上す。大垣兵之を禦ぐ。官軍歩兵隊なる者後軍と為る。時に又長兵西北松原路より進みて滝山に向かふ。其の兵或ひは六七百人、或ひは千人の如し。其の多少弁ずべからず。其の兵皆大轟して進む。紀藩国老水野及び官軍別手隊、大礮を放ちて之を禦げば、則ち長兵忽然と見はれて砲を放つ。方に其れ神のごとし。水野氏滝山に伏兵す。山上陶全姜之城墟にして交戦す。頃刻長兵又別に大道四十八坂より進む。紀兵復た之を禦ぐ。長兵二面、一は北より、一は西よりして漸く山下に迫まれば、則ち紀伏発して大礮を放ちて之を下射す。二面の長兵窺みて敗走す。蓋し松原の兵、長の全軍にしてその余は、則ち彼の游兵のみ。南岸の兵亦走ぐ。抑も紀兵の勝を制するや、水野氏の功多を為す。水野公親ら砲を放ちて敵十二、三名を斃す。又、其の臣前日旬九日の戦に功有りて三百石賜る所の者有り。堀野六郎なる者も復た能く戦ひ、是を以て長兵大いに乱然とす。彼此頗る死傷有り云ふ。紀兵既に帰る。この夜直に玖波の巢穴を衝かんと欲す。議論紛々たり。堀野六郎頗る之を主張す。終に明日に決して今日に至るも尚ほ未だ進まざるなり。初七日記す。

### 語句

**号火** 合図のためにあげる火。のろし。**滝山** 大野の妹背の滝のある山か。**轟** がやがやと騒ぐ。かまびすしい。**紀伊藩国老水野** 水野大炊 守忠 幹。和歌山支藩、新宮藩三万五千石の城主、紀州藩付家老（江戸時代、監督や補佐などのために、幕府から親藩へ、または、大名の本家からその分家へ遣わされている家老職。ふつう、先祖代々仕えている譜代家老よりも上位におかれていた。）**陶全姜** 「全姜」は陶晴賢の法名。**頃刻** しばらくのあいだ。わずかな時間。**四十八坂** 長州戦争の激戦地。JR大野浦駅から西へ100メート

ル。塩屋二丁目、旧国道と西国街道（旧山陽道）とが別れる。この地点が四十八坂の入り口である。四十八坂は塩屋坂から鳴川の長峠までの総称で、大小四十八の坂が3Kmにわたって続くと言われる。この坂を通過して玖波の宿に出る。**紀伏** 紀州藩の伏兵 **窺** 音は「キン」くるしむ。外をとりまかれて、動きがとれなくなる。中にまるく縮まって自由がないさま。**乱然** 乱れた様 **巢穴** かくれが。**紛々たり** ①物事が入り交じって乱れるさま。②意見や説などが多く飛び交うさま。

### 口語訳

長州兵は三方面から同時に進撃する。官軍がこれを攻撃して敗走させる。始め、長州兵は、この日午前4時頃烽火をあげ午前8時頃に及ぶ。長州兵二艘で大野南岸丸山に上陸する。大垣兵がこれを防ぐ。官軍歩兵隊なる者が後軍となった時、また長州兵が西北より松原の路を進軍して滝山に向かう。その兵は、あるいは6、7百人、あるいは千人のようである。その多い、少ないは判断できない。その兵は皆大変騒がしく大声を出して進撃する。紀州藩国老、水野大炊守および官軍別手隊は大砲を放ちてこれを防ぐ。そこで長州兵は、たちまちにして隠れ、またたちまちにして出現して発砲する。その優れているさまはまるで神業である。水野氏は滝山に伏兵させる。山上は陶全姜の城跡であって、ここで交戦する。しばらくして、長州兵はまた別に大道より四十八坂に進撃する。紀州兵はまたこれを防ぐ。長州兵は二手、その一は北より、もう一つは西よりして漸く山下に迫る。それで紀州兵はの姿を現して大砲を放ち、この長州兵を下に向けて射撃する。二方面からの長州兵は堪らず敗走する。思うに、松原の兵は長州の全軍であり、その外はすなわち長州の遊軍だけである。南岸の兵もまた逃げる。そもそも紀州兵の勝利たるや水野氏の手柄、多とするものである。水野氏は自ら銃を放ちて戦い、倒した者の数は、十二、三名である。またその家臣前日十九日の戦における手柄で三百石を賜る者があった。堀野六郎なる者もまたよく戦い、それで長州兵は大いに混乱した。そういうことで敵、味方きわめて多くの死傷者があったという。紀州兵はすでに帰る。こ

の夜ただちに玖波（敵）の隠れ家を襲撃したいと言う。このことで議論が入り乱れ、堀野六郎はしきりにこれを主張する。ついに明日ということに決めて今日に至る。なお、いまだに進撃していない。月の始め七日に記す。

## [参考]

「広島市史」より

## 佐伯郡出張の芸藩郡方歩行目付より来状

今晚6月19日七ツ時頃、敵方より相図を掲げ、夜明五ツ時頃、海手の方、丸石と申す所へ、船二艘にて長州勢上陸いたし候に付、大垣の人数当り合ひ、猶官兵奇兵組後詰いたし候、猶又城山下松ケ原通、凡六七百とも千人とも相見え、一同一発、多勢の者残らず大音上げ、同方へは水野大炊頭殿ならびに官兵別手組当り合ひ、大砲打ち放候処、右長州勢形相見え申さず、猶又立ち出で砲発いたし、往還四十八坂より多人数押し寄せ、戦最中、水野勢兼ねて伏せ之有る城山上は手より、松ケ原通の敵を下り討ちに討ち下ろし、夫れにて敵兵難儀に相成り、追々引き退き、海手も往還も真の奇兵にて、到りて薄く、全くの備は松ケ原通りの由、前文の次第にて大いに勝利に相成り、大炊頭殿は天晴れの働き、側の兩人への替へ筒一挺づつ渡し置き、引き替え引き替え込め替え砲発致させ、敵十二三人討ち取られ候由、同家中19日初手の合戦に大將を討ち取り、其の功を以て加増三百石軍事奉行に引き上げられ候。堀野六郎と申す人、武勇を振ひ、敵余程討たれ候由、尤も双方とも討ち死に多き趣、水野には十四五人手負い、死絶兩人にて、一人は大番頭の由に御座候、只今之処にては、敵は玖波ならびに松ケ原の方へ引き取り居り、味方も夫々本陣へ引き取り、既に今晚直ちに玖波村へ押し寄せせるべく評議にて堀野六郎相進み候由に候へ共、其の議相止め、官郡軍水野・大垣等手を配り、明日の押し寄せ知定相成り候趣御座候、(以下略)

(再び七月の記述になる。)

七月

八日 晴

終日碌々不有爲。

書き下し

終日、碌々として為す有らず。

語句

**碌々** 下に打ち消しの語を伴って、満身に物事をしないさまを表す語。

口語訳

終日、ろくすつぽ何もしない。

九日 晴

朝早起。早拝浅児之墓。辰牌帰。夜赴市。

書き下し

朝、早く起く。早く浅児の墓を拝す。辰の刻帰る。夜市に赴く。

口語訳

朝早く起きる。早く浅児の墓に参拝する。午前8時帰る。夜、市に出かける。

十日 晴

朝調馬。午睡。幽竹翁来。

書き下し

朝、調馬。午睡。幽竹翁来たる。

口語訳

朝、調馬をする。昼寝。幽竹翁がやって来る。

十一日 晴

朝赴城南馬埒。帰路過于俗医新八宅。偶片山兄来。与之談。良久而帰。夜赴于立野氏。

書き下し

朝、城南馬埒に赴く。帰路、俗医新八宅に過る。偶、片山兄来たる。兄と談話する。良久して帰る。夜立野氏に赴く。

語句

**俗医** 御典医に対していう。民間の医者。普通の医者。

口語訳

朝、城南の馬場に行く、帰り道、町医者新八宅に立ち寄る。たまたま片山の兄がやってくる。兄と話す。しばらくして帰る。夜立野氏の所へ出かける。

十二日 晴夕驟雨

朝結髪。調馬。午後悠々無爲。夜赴新八氏。帰路賒物。

書き下し

朝、結髪。調馬。午後悠々として為す無し。夜、新八氏に赴く。帰路物を賒ふ。

口語訳

朝、髪を結う。調馬。午後は悠々として何もせず。夜、新八氏の所に赴く。帰途、物を買う。

十三日 朝調馬。以孟蘭盆之節、午後赴静専寺拝祖先以来之墓。茲日征長之官軍悉退、帰于広陵。不可知其故如何。夜赴市。

書き下し

朝、調馬。孟蘭盆の節を以て午後静専寺に赴き、祖先以来の墓を拝す。この日征長の官軍悉く退き、広陵に帰る。其の故如何なるかを知るべからず。夜、市に赴く。

語句

**孟蘭盆会** 陰暦七月十五日を中心に行われる仏事。祖先の霊を自宅に迎えて供え物をそなえ、経をあげる。**静専寺**「浄専寺」とも記してある。峰龍山と号し、一に「上の坊」と称す。寺町光福寺の南隣にあり、本尊は阿弥陀如来なり。開基覚超は本願寺蓮如上人に帰依随従し、後、佐東郡金山龍原の丘上に一字を草創し、峰龍山・上之坊・浄専寺と号す。金山落城後所々に移転し、一代宗祐の時に至り、同郡上安村に堂宇を建立せり、その後、天正17年(1589) 広島開府の時、仏護寺と共に庁からの命令で広瀬村に賜りしが、福島氏時代に至り、慶長17年(1612) 替え地を今の所に賜り、之に移る。(「広島市史」) **広陵** ①中国江蘇省揚州

市の古名。秦代に広陵県、後漢代に広陵郡が置かれた。②広島のこと。

口語訳

朝、調馬。孟蘭盆会の節なので午後静専寺に出かけ、先祖以来の墓に参拝する。この日、長州征討の官軍は残らず広島に帰る。それがいかなる理由であるのか知ることができない。夜、市に出かける。

十四日 晴

朝調馬。午睡。前日立野君帰自長。十一日復赴于長。

書き下し

朝、調馬。午睡。前日立野君長より帰る。十一日復た長州に出かける。

口語訳

朝、調馬。午睡。前日、立野君が長州より帰る。十一日また長州に出かける。

十五日

朝赴城南馬埒。終日在学校。夕赴于松本氏。以中元節之故也。夜復頗寫。

書き下し

朝、城南馬埒に赴く。終日学校に在り。夕、松本氏に赴く。中元節の故なり。夜、復た頗る写す。

語句

**中元** 三元の一つ。陰暦七月十五日の称。元来、中国の道教の説による習俗であったが、仏教の孟蘭盆会と混同され、この日半年生存の無事を祝うとともに、仏に物を供え、死者の冥福を祈る。

口語訳

朝、城南の馬場に出かける。一日中学校に居る。夕方、松本氏のもとに出かける。中元節のためである。夜、またたいそう下痢する。

十六日 晴



終日在松本氏 夜歸。歸路赴于□□ (文字なし)。謁正岸院尊姉之墓。又轉赴于妙風寺、謁拝落桜院尊亡兄之墓。結髮。

書き下し

終日松本氏に在り。夜、歸る。歸路□□に赴く。正岸院尊姉の墓に謁す。又轉じ、妙風寺に赴き、落桜院尊亡兄の墓を謁拝す。

語句

〔妙風寺〕 城下東白島町の日蓮宗一致派寺院。〔謁〕 まみえる。身分の高い人をおしとどめて訴える。轉じて、身分の高い人にあう。〔転〕 ①うつる。② つぎつぎとうつっていく。③場所をかえる。向きをかえる。④はこぶ。

口語訳

終日、松本氏のところに居る。夜、(家に) 帰る。帰り道、□□に行く。正岸院尊姉の墓に拝謁する。また方向をかえて、妙風寺に行き、落桜院尊亡兄の墓に謁拝した。

十七日 曇

朝早赴妙静院面于惣平見其閱兵。其走奔于山間也。甚妙。夕歸。赴郡府不欲家大人。不幸家大人在朝廷与田中氏談話。頃刻歸。欲登城途逢于家大人。即歸亦赴妙静院。路過于酒店挈酒三升去以祝惣平之得五口俸。蓋茲日官賜于惣平以五口俸。茲日早朝長人欲破吾西辺之柵而来于城下柵之守。將止之。終不能到云然未聞其詳。黄昏歸。又赴于日通寺。

書き下し

朝早く、妙静院に赴き、惣平に面し、其の閱兵を見る。其の走り山間を奔るなり。甚だ妙なり。夕、歸る。郡府に赴き家大人に面せんと欲す。不幸にして家大人朝廷に在り。田中と談話す。登城せんと欲し、頃刻、歸る。途、家大人に逢ふ。即ち歸り、復た妙静院に赴く。路、酒店に過り、酒三升を挈し、以て惣平の五口俸を得るを祝するに去く。蓋しこの日官、惣平に賜うに五口俸を以てす。この日、早朝長人吾が西辺の柵を破らんと欲

して、城下に来たる。柵の守、將に之を止めんとす。終に到る能はずと云ふ。然るに未だ其の詳を聞かず。黄昏、歸る。又日通寺に赴く。

語句

〔木本莊平〕 「木本壯平」日記では、「惣平」とも記している。

「佐伯郡下村出身の農民の木本壯平は、長州藩で、荻野流練兵式を練習して帰村した。広島藩は壯平を応変隊調練の教授役に抜擢し、郡役所支配、五人扶持として抱えた。」(「村上家乗」慶応二年：広島県立文書館資料3)

[参考]

・「村上家乗」慶応二年八月廿六日の記述

「(前略) 敬次郎今日応変隊調練見物に行く。右応変隊というのは、宮内辺りの百姓惣平と申す者同所立ち去り、長州へ参り、<sup>はたら</sup>持き致し居り候うち、斯くの如き時勢になり、隊頭の家へ入り込み、農兵隊調練の作法を密かに覚悟致し候ところ、せんだって戦争頃より廿日市へ帰り、同所にて農兵の頭を致し、調練の指揮致し候ところ、中々善き指揮致し候につき、近頃当所はへ呼び寄せ、農兵を募り、応変隊と唱し、その調練を申し付けられ、この節不動院・日通寺辺りにて山河の稽古致し、殊の外甲斐甲斐しき事にて、見る人皆感心致し候由なり。」

・「廿日市町史」の記述

「応変隊は、はじめ廿日市の潮音寺を屯集所として誕生した。同寺は、広島藩における農民諸隊発生の地となったのである。応変隊の教練には、佐伯郡下村(現、湯来町)出身の農民、木本壯平があたった。彼の経歴については不明な点が多いが、ある資料には次のように記している。彼は慶応二年当時廿七〜廿八歳くらいで、元來は相撲取りであったという。一二〜十三歳ごろから稼業として長州へ<sup>えんしやう</sup>焰硝を取りに行っていたが、稼業は怠りがちで、いつからか同地で家中の奉公を勤めるようになり、「大砲先生萩野何某」から兵術を学び、長州藩の農兵諸隊で先鋒隊に入隊して「小先生」になった。しかし、その後、奉公先の家中へ養子に入ったことなどから同僚のねたみを受け、

一命にもかかわる状態となったため、戦争の混乱にまぎれて出奔し帰村したという。広島藩は、この木本壮平を応変隊の教授に抜てきし、その教練にあたらせたのである。

その後、各郡の有志の者が続々と応変隊に入隊してその数三百人にも達し、潮音寺の境内では手狭になったため、屯所を佐方に移した。ところで、応変隊の結成された正確な時期は不詳であるが、慶応二年六月の『応変隊兵糧米請払賄帳』によれば、既にこの時には屯所を洞雲寺に移していることが知れる。したがって、潮音寺で応変隊が結成された時期は、慶応二年六月より以前であったと考えられる。(中略) この後、応変隊は、幕・長両軍の戦火が廿日市に迫り新兵の教練には不適となったため、七月に入ると屯所を安芸郡牛田村(現、広島市東区)日通寺に移し、十一月には更に同郡新山村(同前)不動院に移した。(芸藩志68巻) この間応変隊の一部は二川主税の配下に属し、石津蔵六を隊長として六十三名が極楽寺山の守備隊として配備され、八月に隊員に帯刀・袴着が許された。同隊は、十二月に一度解散させられたが、翌、慶応三年三月には不動院に再召集され、その後戊辰戦争には正規軍として出動した。

この応変隊は、先に設置された郡村単位の農兵隊とは性格を事西、「農務之余暇」という制限が除外され、職業的な軍隊として隊員には扶持米が支給された。また、木本壮平は城下白島に邸宅を構え、五十石の禄を受けたという。」

**郡府** 郡役所 **五口俸** 口俸とは、一人が生活しうだけの俸給。一人扶持は、江戸時代、主君から家臣に給付される俸禄の一基準。幕府の場合は、一人一日の食糧に玄米約五合、一ヶ月一斗五升を標準とし、これを一年分の米またはそれに相当する金銭。一般に封禄が原則。

**関兵** 軍隊を整列させて、元首、司令官などが見回ること。観兵。巡関。**奔る** ぱっと勢いよく駆ける。向こう見ずにどンドン駆ける。**朝廷** 庁庭・聴庭のことか。役所などの庭。または裁きの場。

**撃** ひっさげる。たずさえる。

口語訳

朝早く、妙静院に赴き、惣平に面会し、彼の関

兵のようすを見る。兵士の走りは、山間を駆けめぐるのである。その業はきわめてすばらしい。夕方、帰る。郡役所に出かけ、父上に面会しようと思う。残念なことに父上は裁きの役所に居られた。田中氏と談話する。しばらくして帰る。登城しようと思ひ、その途中で父上に出会う。すぐに帰り、また妙静院に出かける。途中で酒店に立ち寄って、酒三升を携えて、それで以て惣平の五口俸を給されたのを祝うために行く。つまり、この日お上は、惣平に五口俸を賜ったのである。この日、早朝長州わが藩の西部の境の防柵を打ち破ろうとして城下に迫り来る。そこですぐこれを防ぎ止めようとする。しかし、ついに迫ってくることは出来なかったと言う。しかしながら、未だその詳細については聞いていない。夕方、帰る。ま又日通寺に出かける。

十八日 曇

終日在日通寺。肆業。夕有吾家之使者来曰官急命而使學学校赴戦。故可早帰云。即帰傾別杯赴学校。學学辞之。蓋有故也。官許之。是學学欲募義人而學兵也。余為別有所思辞其隊而不入。登城面佐藤子。述吾志佐藤子 告之官。官許之。乃轉而赴郡府。小頃東方既白。

書き下し

終日、日通寺に在り。<sup>しぎょう</sup>肆業す。夕、吾が家の使者来たる有り。曰く、官、急に命じて学校を挙げて戦に赴かしむ。故に早く帰るべしと云ふ。即ち帰り、別杯を傾けて学校に赴く。学を挙げて之を辞す。蓋し故有るなり。官、之を許す。是れ学を挙げて義人を募らんと欲して、兵を挙ぐるなり。余、別に思ふ所有ると為し、其の隊を辞して入らず。登城し、佐藤子に面し、吾が志を佐藤子に述べ。之を官に告ぐ。官、之を許す。乃ち轉じて郡府に赴く。<sup>しょうけい</sup>少頃、東方既に白し。

語句

**肆業** 業に力を尽くして努力する。 **別杯** 別れを惜しみ酌み交わす酒。 **義人** 義を固く守る人。正義心の強い人。正義の士。義士。

## 口語訳

一日中日通寺にいる。仕事に励む。夕方、わが家からの使者としてやって来た者がある。その使者が言うには、お上が急に学校を挙げて戦に行くように命じた。だから早く帰ってもらわねばいけない、と。早速帰って別れの杯を傾けて、学校に赴く。学校はこぞってこれを辞退する。つまり、理由があるのである。お上はこれを許可した。これは、学校を挙げて義人を募って兵を挙げたいというのだ。わたしは別に思う所があって、その隊に入ることを断った。登城して佐藤氏に面会し、自分の志を佐藤氏に述べる。これをお上に告げる。お上はこれを許可する。そこで行き先を変え、郡役所に行く。しばらくして東の方がすでに白んできた。

## 十九日 雨

朝在郡府。有事至于申牌即欲赴于日通寺。不幸有疾。乃至于新八使切脈、擊藥而帰。不能赴日通寺。就寝。

## 書き下し

朝、郡府に在り。事有り、申牌に至り、帰る。即ち日通寺に赴かんと欲す。不幸にして疾有り。乃ち新八に至り、切脈せしめ、薬を撃して帰る。日通寺に赴くこと能はず。就寝。

## 語句

**日通寺** 日通寺観音堂。広島市東区牛田新町にある寺。単立(日蓮宗系)山号は英心山。

本尊は十界大曼荼羅。寛文3年(1663)広島藩主淺野家の山莊日新館があった牛田新山に三代藩主綱晟を埋葬。当時の藩主菩提寺であった尾長の国前寺が番僧を配して墓所を守っていたが、元禄初年(1688)幕府の日蓮宗不受布施派禁圧が始まり、同4年(1891)広島藩は国前寺の不受布施を停止、翌年(1892)11月に二代藩主光晟夫人自昌院の意向で国前寺領200石を収公し、菩提寺も天台宗寺院へ改めることになる。この時賀茂郡国吉村の阿弥陀寺という天台宗の古寺を現在地に移築。自昌院の法名英心日妙と先に葬られていた綱晟の法名徹性日通から現山寺号を付した。以後8年間

は城下の天台宗松栄寺の管理下にあったが、元禄12年(1699)7月日蓮宗へ改宗、越後国本成寺の末寺となる。**切脈** 脈をとって病状を診察すること。**撃** たずさえる。

## 口語訳

朝、郡役所に居る。用事があって午後4時に至って家に帰る。すぐに日通寺に出かけようとする。不幸なことに病になる。そこで町医者の新八のところに行き、病状を診察してもらい、薬をたずさえて帰る。それで日通寺には行くことが出来なかった。就寝。

## 廿日 晴雨相半

朝欲卯牌赴日通寺。誤認丑牌為卯牌。力疾而去至于彼熟睡。良久而天暁。終日疾瀉而身体罷罷。諸人勸余使帰而保養。余従之。未牌帰而石薬並施。

## 書き下し

朝、卯牌日通寺に赴かんと欲す。丑牌を誤認し、卯牌と為す。力疾去り、彼熟睡に至る。良久して天暁。終日疾瀉して身体罷を覚ゆ。諸人余に勧めて帰りに保養せしむ。余之に従ふ。未牌帰りに石薬並び施す。

## 語句

**瀉** 腹くだし。**力疾** ①病気をしておして物事をする。②非常に速いこと。**良久** しばらく。**罷** ①つかれる。力がなえてだらだらする。がっくりする。疲に同じ。②力がなえて作業をやめる。③役目をやめさせる。④やむ。おわる。**石薬** 周礼にいう五薬の一つ。石で薬となるもの。

## 口語訳

朝、6時ごろ日通寺に出かけようと思う。午前2時を思い違いして午前6時に取り違えた。病気をしておして行き、彼は熟睡してしまう。しばらくして夜明け。終日、下痢して体の疲れを覚える。みんなが私に帰って保養するようにと勧めてくれた。私はこれに従った。午後2時家に帰って、石薬を併用する。

廿一日 曇

終日碌々。夜赴于新八氏。

書き下し

終日碌々。夜新八氏に赴く。

語句

**碌々** 平凡なさま。たいてい役にたたないさま。また、自主性のないさま。

口語訳

一日中たいしたこともなく過ごす。

廿二日 曇晴相半

疾漸愈。聞昨吾兵与長接鋒而得勝云。然未聞其詳。松齋兄来。夜赴市。**㊦** 亥牌家大人帰。結髪。

書き下し

疾漸く愈ゆ。昨、吾兵長と鋒を接して勝を得と云ふを聞く。然るに未だ其の詳を聞かず。松齋兄来る。夜市に赴く。**㊦** 亥牌家大人帰る。結髪。

語句

**鋒** 刃物の先のとがった部分。きっさき、また、刀、刀剣。武器。また、軍隊。「鋒を接する」一戦交える。

口語訳

病がやっと癒える。昨日わが藩兵と長州兵とが交戦して勝利を得たというのを聞いた。しかしながら、その詳細は聞いていない。松齋兄が来る。夜市に出かける。**午後2時** 午後10時父上が帰られる。髪を結う。

廿三日 雨

以疾愈。朝早赴日通寺。閱兵。夜有報曰、明日戦将始而惣平下極楽寺山陣于白沙。憂其少人数。応明日出練兵而無練兵 以故辞。

書き下し

疾、愈を以て、朝早く日通寺に赴く。閱兵。夜報有りて曰く、明日、戦、将に始めんとして惣平

極楽寺山を下り、白沙に陣す。其の人少なきを憂ふ。応に明日練兵に出づべくして練兵無し。故を以て辞す、云ふ。

語句

**白沙** 古くは「白沙」・「白迫」とも書き、白坂ともいった。「白砂しらさご」のこと。白砂村 江戸期～明治22年の村名。八幡川源流域。真言宗極楽寺(現在、廿日市市町原に所在)は、天平年間に僧行基の開基と伝えられる古刹。

口語訳

病が癒えたので、朝早く日通寺に出かける。閱兵する。夜、知らせがある。それによると、戦を始めようとして惣平が極楽寺山を下り、白沙に陣をしいた。人数が少ないことを心配している。恐らく明日練兵に出る予定ではあるが、練兵は無いであろう。訳あって取りやめる、と言う。

廿四日 曇

終日閱兵。

書き下し

終日、閱兵す。

口語訳

一日中、閱兵する。

廿五日 晴

練兵而至于休兵。除酒炙香魚喰之。

書き下し

練兵して休兵に至る。酒を除ひ、香魚あぶを炙り、之を喰う。

語句

香魚 鮎のこと。

口語訳

練兵して、兵を休めることになる。酒を買い、鮎を焼いてこれを食べる

廿六日 晴

以四方之義民輻輳頗得異人。然終無豪傑。

書き下し

四方の義民を以て輻輳す。頗る異人を得。然るに終に豪傑無し。

語句

**義民** 正義のために自分の命をかけて尽くす人民。特に近世、百姓の他に一命をなげうって権力と戦った人をいう。**輻輳** 四方から寄り集まること。物が一カ所に混み合うさま。**異人** ①優れた才能、人格をもった人。偉人。②この世の者と思えない姿の人。怪奇な人。③一風変わった性質の人。変人。④不思議な術を行う人。仙人。⑤ほかの人。別人。⑥よその国の人。外国人。⑦ある社会の外側に住むもの。異界に住むもの。よそもの。**豪傑**

①才知または武勇の、ひじょうにすぐれているさま、またその人。②俗に、一風変わった人。また、細事にこだわらない人。度胸のすわった人。豪放な人物。③はなはだしいさま。とびぬけているさま。大層。仰山。

口語訳

あちこちからの正義のために命をなげだすという人が多く集まった。一風変わった人を多く得る。しかしながら、結局、度胸のすわった人物はいなかった。

廿七日 晴

朝練兵。午後爲疾所犯不能出。吾欲成大事数蹶。悲哉。

書き下し

朝、練兵す。午後、疾の犯す所と爲る。出づる能はず。吾大事を成さんと欲すれば、数<sup>しばしば</sup>蹶く。悲しいかな。

語句

**蹶** 音は「ケイ」つまづく。

口語訳

朝、練兵をする。午後、病に冒される。練兵に出ることができなくなる。わたしは大事を成し遂げようとするとしばしばつまづく。悲しいことよ。

廿八日 晴

練兵。昨夜壮平歸于日通寺。茲夜以爲疾所犯歸而治疾。于時家大人亦疾。

書き下し

練兵。昨夜、壮平日通寺に歸る。この夜、疾の犯す所と爲るを以て歸りて疾を治す。時に家大人も亦疾す。

口語訳

練兵する。昨夜、壮平が日通寺に帰ってくる。この夜、病に冒されたので帰って病を治そうとした。折から父上もまた病に冒される。

廿九日 晴

朝早赴于日通寺。茲日扱兵而出于極楽寺。近頃西辺戦始云。

書き下し

朝早く、日通寺に赴く。この日兵を扱(えら)びて、極楽寺に出づ。近頃、西辺戦始むと云ふ。

語句

**極楽寺** 佐伯郡廿日市町(現、廿日市市)にある寺。高野山真言宗。上不見山浄土王院と号す。本尊は千手観音。極楽寺山の山頂に所在。

口語訳

朝早く日通寺に出かける。この日兵士を選んで、極楽寺に出発する。西部あたりで戦を始めたと言う。

晦日 晴

終日練兵。

書き下し

終日、練兵す。

(口語訳省略)

八月朔 雨

朝練兵。午後歸于家。省家大人之病。又赴松本氏。

書き下し

朝、練兵す。午後家に歸る。家大人の病を省す。又、松本氏に赴く。

語句

省 ①かえりみる。②人の安否をねんごろにたずねる。③親の安否をよくみてたしかめる。④はぶく。余計な部分を取りさる。

口語訳

朝、練兵。午後家に歸る。父上の病気の具合をたずねる。また松本氏のもとに出かける。

二日 晴

練兵。近頃官軍与長数戦而却之。然吾軍未接一戦 堂有議論云。

書き下し

練兵す。近頃官軍、長と数戦ひて、これを却く。然るに吾が軍未だ一戦も接せず。堂、議論有りと云ふ。

語句

堂 政事堂

口語訳

練兵をする。最近、官軍が長州兵としばしば戦ってこれを却ける。しかしながらわれらの藩兵は一戦も交えていない。政事堂で議論があったと言う。

三日 晴

朝練兵。木原、松子兄、藤田子来。見吾練兵。乃爲之設一陣、示于之。午後惣平爲之。復設数陣備。黄昏去。二三日之間大礮之声 而不止。且当玖波・小方之間昼則煙漲于天。夜則焰光照天。実生民倒懸之秋也。

書き下し

朝、練兵す。木原、松子兄、藤田子来。吾が練兵を見る。乃ち之が爲に一陣を設け、之に示す。午後惣平之を爲す。復た数陣を設け、備ふ。黄昏去る。二三日の間、大礮の声、轟きて止まず。且、当に玖波・小方の間、昼なれば、則ち煙天に漲り、夜なれば、則ち焰光天を照らす。実に生民倒懸の秋なり。

語句

生民 たみ。たみぐさ。人民。国民。倒懸 手足を縛って、逆さまにつるすこと。転じて、非常な困苦・苦痛のたとえ。秋 特に重要な事のある時期。ただし、「秋」と書いて「とき」と読むのが普通。

口語訳

朝、練兵する。木原、松本氏の兄、藤田氏が来る。私の練兵を見る。そこで彼らの爲にひと合戦を設定し、彼らに示す。午後は惣平がこれを行う。また数合戦を準備して、設定する。夕方、立ち去る。二三日の間大砲の音が轟いて止むことがない。そのうえ、まさに玖波・小方の間で、昼であれば、すなわち煙が天にみなぎりあふれ、夜であれば、焰光が天を照らす。まことに民は困苦・苦痛の秋である。

四日 雨

朝練兵。午後不出。先生去于船越氏。

書き下し

朝、練兵す。午後出でず。先生船越氏に去(い)く。

口語訳

朝、練兵する。午後は外出しない。先生は船越氏のもとに行く。

五日 雨

終日不出。夕出于酒店、喰香魚。時得家大人之書。夜学取麿。

書き下し

終日出ず。夕酒店に出で、香魚を喰ふ。時に家大人の書を得。夜、学。魔<sup>ま</sup>を取る。

語句

酒店 酒場。香魚 鮎。書 書簡。魔 ①さしまねく。手の先を曲げて人を呼んだり、指図したりする。②身分高い人の行列の先導、また、軍隊の指揮者の持つ旗。さしずばた。

口語訳

一日中外出しない。夕方、酒家に出て行き、鮎を食べる。夜、学校。指示をする。

六日 雨

朝疾復起。蓋瀉也。余少時多病。中間頗壯健。今也、復数疾而数害事業。嗟、天不欲成大事乎。悲哉。

書き下し

朝、疾復た起く。蓋し瀉なり。余、少時多病。中間頗る壯健。今や、復た<sup>しばしば</sup>数疾して、数事業を害す。嗟、天大事を成すを欲せざるか。悲しいかな。

口語訳

朝、病がまた起きる。すなわち下痢である。わたしは若いころ、多病であった。中ごろは、大変に壮健であった。今や、またしばしば病に罹り、しばしば、事業を害している。ああ、天は大事を成し遂げることを願ってはいないのか。悲しいことよ。

七日 雨

自昧爽大砲声轟于地。午後有報曰、井伊・榊原之兵大敗走云。爾未聞其詳。茲夜洪水頗出。大風折樹。

書き下し

昧爽より大砲声地に轟く。午後報あり曰く、井伊・榊原の兵大敗走すと云ふ。しかるに未だ其詳を聞かず。茲の夜洪水が甚だしく出る。大風樹を折る。

語句

昧爽 夜の明け方。あかつき。未明。詳 詳細。

口語訳

未明から大砲の音が地に轟く。午後知らせがあり、それによると、井伊・榊原の兵が大変に敗走したということである。しかしながら、いまだにその詳細を聞いていない。この夜、大変な洪水であった。大風が樹木を折る。

八日 晴

終日悠々。不能出以疾之未愈之故也。

書き下し

数日悠々。疾の未だ愈えざるの故を以て出づる能はざるなり。

口語訳

数日、悠々としていた。病がいまだに癒えないので、外出ができないのである。

九日 雨

余以疾、数日不出則心気鬱陶 疾益不愈 則憤然決起力疾而奔走于山岳。然終委頓而帰。午後亦出夕陽將帰得家大人之書。有官命使余登城。即帰則家大人既帰。蓋官許乞以余爲松本氏義子之請也。余即登城与松本尊翁共去管氏湯川終而帰家。

書き下し

余、疾を以て数日出でざれば、則ち心気鬱陶し、疾益愈えざれば、則ち憤然として決起力疾して山岳を奔走す。然るに終に委頓して帰る。午後亦出づ。夕陽將に帰らんとして家大人の書を得。官命有りて余をして登城せしむ。即ち家に帰れば、大人既に帰れり。蓋し官、松本氏の爲に義子の請を以て乞ふを許すなり。余即ち松本氏と登城し、松本氏尊翁と共に管氏・湯川に去く。終はりて余、家に帰る。

語句

鬱陶 ①気がふさいではわかれしないこと。また、そのさま。②憂え、憤ること。義子 義理の子。

養子。**憤然** ①怒るさま。いきどおるさま。②発憤するさま。**決起** ①勢いよく立ち上がる事。  
②決然として物事をはじめること。また、かたい意志をもって行動を起こす事。**力疾** ①病気をしておして物事をする。②非常に速い事。**委頓** くじける事。力が抜ける事。**夕陽** ①夕日。②ゆうぐれ。夕方。

口語訳

わたしは病気のせいで数日外出しなかったの、気分がふさいで、病がますます治らないため発憤して、思い立って山岳を飛び回る。しかしながら、ついにくじけてしまつて帰る。午後、また出かける。夕方、ちょうど帰ろうとして父上の書簡をもらった。お上のお達しがあつて、わたしに登城せよとのことである。早速、家に帰ると、父上は既に帰っておられた。思うに、お上は松本氏のために養子許可の請願をしたのを認めるといふことであらう。そこで、わたしは松本氏といっしょに登城し、松本尊翁と共に管氏・湯川のもとに行く。それが終わつて、わたしは家に帰つた。

十日

十一日

十二日

十三日

数日疾故不録。

書き下し文

数日、疾の故録さず。

口語訳

数日病のため記録しない。

十四日 晴

以心気頗快。午後去学校観練兵。

書き下し

心気頗る快なるを以て、午後学校に去き、練兵を観る。

口語訳

気分が大変爽快なので、午後学校に行き、練兵

を見る。

十五日 雨夜大風雨

朝赴星野氏。主人美酒・佳肴享余。余午前帰。午眠。申牌前去于学校。帰路帰于松本氏。義妹疾疫而劇也。

書き下し

朝、星野氏に赴く。主人余に美酒・佳肴を享す。余午前帰る。午眠。申刻前学校に去く。帰路松本氏に帰る。義妹疾疫にして劇なり。

語句

**疾疫** 悪性の流行病。疫病。えやみ。

口語訳

朝、星野氏のもとに出かける。主人はうまい酒とうまい肴をもてなす。自分は正午前に帰る。昼寝。午後4時前、学校に行く。帰路、松本氏のところに戻る。義妹が悪性のはやり病であつて病状がひどい。

十六日 晴

朝赴于広本貞之家。終日悠々。只視疾。夜帰。茲夜清風明月既而稱既恰如暗雲無月。近頃長兵扞境而帰。只小兵在小方・大竹之間而已。官軍亦退于五日市。而余未聞其詳説。將軍亦薨去。又聞閩老伯州被罪。閩老壺州脱走帰于国。又聞一橋公将来。又聞兵庫開港、將始于来月。又聞薩与土討会津公。京師頗騒然。嗟天下之治乱可知耳。

書き下し

朝、広本貞之の家<sup>い</sup>に赴く。終日、悠々。只疾を視る。夜、帰る。この夜、清風、明月すでにして稱し、既に恰も暗雲月無きが如し。近頃、長兵境を扞ひて帰る。只小兵小方・大竹之間に在るのみ。官軍も亦五日市に退く。しかるに余未だ其の詳説を聞かず。將軍も亦薨去す。又、閩老伯州罪せられ、閩老壺州脱走し国に帰ると聞く。又一橋公将来に來たらんとすと聞く。又兵庫開港、將に來月に始めんとすと聞く。又薩と土、会津公を討ち、京師頗る騒然たりと聞く。嗟、天下の治乱知るべき



のみ。

#### 語句

**薨去** 諸侯、貴人が死ぬ。皇族や三位以上の人が死去すること。

**稱** とる。**治乱**（「乱」に重きをおいて）乱れること。

#### 口語訳

朝、広本貞之の家に出かける。一日中悠々として過ごす。ただ、病気をいたわり心くばりする。この夜、清風や明月はすでになく、ちょうど暗雲がたれこめ、月がないという情景であった。近頃、長州兵が藩境を引き払って帰る。ただわずかな兵が小方・大竹の間に駐屯するだけである。官軍もまた五日市に撤退する。しかしながら私はその詳細については聞いていない。將軍もまた亡くなられた。また閣老伯耆守罪にさだめられ、閣老耆岐守は脱走して帰国したと伝えられた。また一橋慶喜が来ようとしていると聞く。また兵庫港の開港を来月に始めようとしていると聞いている。また薩摩藩と土佐藩とが会津藩公を討ち、京都は大変に騒然としていると聞いている。ああ、天下の乱れを知ることができるだけである。

#### [参考]

##### 「將軍も亦薨去す」

慶応二年七月二十日の夕刻、將軍徳川家茂が大坂城で亡くなった。「深い心労の孤独な死であった。まだ二十一歳という若死にであった。」（野口武彦著「長州戦争」）家茂の死は一月の間公表されず、八月二十日まで伏せられた。しかし、この報は、密かに自然に広まっていった。

##### \*「閣老伯耆罪せられ」

慶応二年六月二十五日、閣老松平伯耆守は総督にも告げず、独断で拘禁中の宍戸備後介と小田村素太郎を長州へ放還した。独自に和平交渉をし、局面の打開を図ったが、長州側は応じず、功を奏さなかった。七月四日、何ら相談をされなかった総督徳川茂承（もつづく）は怒り、辞表を提出した。幕閣は彼を慰撫する一方、伯耆守を大坂に召喚して糾問されたうえ、七月二十五日に老中を罷免さ

れた。そしてこの年の十月、蟄居隠居を命じられるのである。

##### \*「閣老耆岐脱走し帰国に帰ると聞く」

広島から小倉表に移った閣老耆岐守小笠原長行ながみちは小倉口での戦が敗戦濃厚になってきたところで、將軍家茂の死の密報を得て、長行は本營を抜け出し、小倉口の戦線を放棄して長崎へ逃げ去った。

##### \*「一橋公将に來たらんすと聞く」

慶応二年七月二十八日、一橋慶喜は勅許を得て、十二月に將軍職につくことになる。慶喜自身が芸州口を攻め、紀州総督に石州口を攻めさせる予定であった。八月十二日に大坂を出発して、二十日頃広島到着の日程ができあがっていた。しかし、小倉での敗戦の報がつつぎと伝えられ、慶喜は戦意を喪失し、八月十四日、止戦の勅書を願った。（野口武彦著「長州戦争」による。）

##### \*「兵庫港の開港を来月に始めようとしていると聞いている」

慶応元年（1865）9月17日、アメリカ・イギリス・フランス・オランダ四国公使、安政条約勅許・兵庫先期開港を要求してきた。それに対し翌月条約勅許、兵庫港開港不許可を回答する。慶応三年（1867）年5月、兵庫港開港勅許。

・「兵庫開港問題は、攘夷運動として始まった幕末維新の分水嶺をなしている。」（野口武彦著「長州戦争」）

##### \*「薩と土、会津公を討ち、京師頗る騒然たりと聞く」

薩摩藩と土佐藩との関係、慶応二年（1866）1月21日、土佐の坂本龍馬の仲介で「薩長同盟」が成立する。やがて慶応三年（1867）10月には薩長に討幕の密勅がくだり、討幕と共に会津公（松平かたもり容保）をも討てと命がくだる。

#### [参考文献]

・広島県史 ・広島市史 ・芸藩志 ・廿日市町史 ・芸藩輯要 ・村上家乗 慶応二年（広島県立文書館資料集3） ・慶応三年（広島県立文書館資料集4） ・広島藩における近世用語の概説（金岡 照編） ・征長の役・安芸口戦（角井菊男 近代文芸社） ・長州戦争（野口武彦・中公新書） ・幕府歩兵隊（野口武彦・中公新書） ・

幕末入門（中村彰彦・中公文庫） ・ 広漢和辞典・  
漢字源 ・ 日本国語大辞典 ・ 広島県地名大辞典  
（角川書店） ・ 日本歴史大事典（小学館）

あとがき

「山田養吉先生の『丙寅日記』を読む」は、三  
回にわたって掲載していただいた。すでに述べた  
ように、慶応二年六月一日から同年八月十六日ま  
での日記で、期間としては短い。しかしながら、  
長州戦争に関わる記述が多く見られ、日記の解説  
にあたっては長州戦争についての勉強が必要であっ

た。もとより歴史に関して知識の乏しい者である  
から調べるのにかなり時間を要した。しかし、当  
然ながら至らぬところが多く、十分に裏付けが出  
来ていない。不明な点は、そのままにしていると  
ころも多い。「その一」「その二」「その三」と紹  
介している中で、すでに発表したものについて、  
新たに判明した事項、誤っていた箇所があること  
が分かってきた。今後さらにそのような点を訂正・  
補足していき、内容を高めていきたいと願ってい  
る。諸氏のご教示をいただければ、幸甚である。

# シニア大会に参加して

林 孝治 (高2回)

第9回シニア(60歳・70歳以上)サッカー大会は平成21年5月30日(土)と翌31日(日)の2日間、広島の人々が、お世話をして、広域公園第一球技場・補助競技場・中国電力坂スポーツ施設(土)、ビッグアーチ(日)で開催されました。

二日間、晴天に恵まれ、北海道から鹿児島までの、60歳・70歳以上のサッカー・マン523名が一同に集まり、旧情をあたため、ボールを追い、勝敗を競い、盛大に行われました。

60歳以上は広島が開催地代表として、広島県全域からの選抜で、修道OBからは藪 正悟・脇洋一君が選ばれ出場しました。関東地域第一代表として千葉四十雀サッカークラブ(60)から若山待久君が出場しました。

70歳以上は関東地域代表として東京シニアロイヤルが会場、修道OBからは森田哲郎・高場利博・竹内民雄君の3名、中国地域代表として中国連合軍FCが会場、修道OBからは下村幸男君

と林 孝治の2名と、開催地代表として広島市選抜が会場、修道OBからは高瀬正則・中野一美君が、それぞれのチームで活躍いたしました。

かつて、サッカー王国広島と言われ、全国優勝6回を成し遂げた多くの修道OBが、全国各地で、元気で、ボールを蹴り、青少年の指導に献身的な努力をして、サッカーを生業スポーツとして貢献しております。因らざるも今回は10名が母校のある広島に集まることができました。本大会に10名を出場させる学校は、他に多くはないと思われます。

22年は静岡県・藤枝、23年は岡山県で開催される予定になっております。これからも、より多くの修道BOYの出場を期待し、交流を深めて行きたいと思っております。

今後は、ますます元気で、世界一の80歳以上のゲームができる環境を整えていきたいと思っております。

戦績(関係分)は次の通りです。



左から  
中野一美、森田哲郎  
高瀬正則(高9回)



左から  
石井正司(高6回)  
前川晴雄(高10回)  
脇洋一(高15回)



左から  
下村幸雄、林 孝治(高2回)  
小野津博好氏(東京代表)  
若山待久(高14回)

## 第9回全国シニア（60歳以上）サッカー大会

（2009年（平成21年）5月30日（土）、31日（日））

会場 I コカ・コーラウエスト広島スタジアム  
 II 広島広域公園第一球技場  
 III 広島広域公園補助球技場  
 IV 中国電力坂スポーツ施設（5/30） 広島広域公園広島ビッグアーチ（5/31）

I	Group A	広島県選抜	宮城フェニックスSC	あしがるサッカー富山	静岡県選抜	勝点	得点	失点	得失点	順位
		広島県選抜 【開催地代表】		○3 3-0 0-0 0	○4 3-0 1-0 0	△0 0-0 0-0 0	7	7	0	7
	宮城フェニックスSC 【東北第2代表】	●0 0-3 0-0 3		○2 1-0 1-1 1	●0 0-1 0-2 3	3	2	7	-5	3
	あしがるサッカー富山 【北信越第1代表】	●0 0-3 0-1 4	●1 0-1 1-1 2		●0 0-2 0-5 7	0	1	13	-12	4
	静岡県選抜 【東海第1代表】	△0 0-0 0-0 0	○3 1-0 2-0 0	○7 2-0 5-0 0		7	10	0	10	1

II	Group B	兵庫県シニア選抜60	TOMATOシニア60	福岡60雀フットボール倶楽部	千葉四十雀SC60	勝点	得点	失点	得失点	順位
		兵庫県シニア選抜60 【関西代表】		○4 3-0 1-0 0	○2 0-0 2-0 0	●0 0-0 0-1 1	6	6	1	5
	TOMATOシニア60 【北海道代表】	●0 0-3 0-1 4		○2 2-0 0-1 1	●0 0-1 0-0 1	3	2	6	-4	3
	福岡60雀フットボール倶楽部 【九州第1代表】	●0 0-0 0-2 2	●1 0-1 1-1 2		●0 0-1 0-2 3	0	1	7	-6	4
	千葉四十雀SC60 【関東第1代表】	○1 0-0 1-0 0	○1 1-0 0-0 0	○3 1-0 2-0 0		9	5	0	5	1

## シニア（70歳以上）サッカークフェスティバル

（2009年（平成21年）5月30日（土）、31日（日））

会場 I コカ・コーラウエスト広島スタジアム  
 II 広島広域公園第一球技場  
 III 広島広域公園補助球技場  
 IV 中国電力坂スポーツ施設（5/30） 広島広域公園広島ビッグアーチ（5/31）

5月30日（土）

I	12:00～	宮城フェニックスサッカークラブ	1	0 - 0 1 - 1	1	広島市選抜
III	12:00～	NPO法人京都暁FC	0	0 - 0 0 - 2	2	中国連合軍FC
II	14:00～	東京都シニア（O-60）ロイヤル	6	3 - 0 3 - 0	0	鹿児島四十雀元老FC

5月31日（日）

II	11:30～	東京都シニア（O-60）ロイヤル	3	2 - 1 1 - 0	1	静岡県選抜
III	12:30～	中国連合軍FC	1	1 - 0 0 - 0	0	埼玉シニア70
I	14:00～	広島市選抜	1	0 - 1 1 - 1	2	湘南ベガサスSC



左より  
 高場利博（高9回）  
 竹内民雄（高10回）



数 正悟（高17回）

# 「修道中学の思い出」

河喜多 能 正 (旧中27回)

前略

修道中学・高校同窓会様

初めてお手紙をさしあげます。

私の父河喜多能正は、今年90歳を迎えました。

最近はベッドの上ですごす時間が長いのですが、修道中学での思い出を語ることが少なくなく、自らパソコンで記憶をよみがえらせながら、入力作業を続けています。

できましたら、同窓会のみな様にもお読み頂きたいと、郵送させて頂くことにしました。

会報など掲載が可能であれば、これ程うれしいことはありません。ご検討の程よろしく申し上げます。

かしこ

林田道子 (旧姓 河喜多)

序 文

天草本渡町に於ける中学1年時代の概要を述べる。横浜から越して来た同級生中野卓爾一家との交流が主で遊びばかり。卓爾には母親と2人の姉がいた。上が道子下が俊子。いずれも評判の美人で外で会えば皆振り返るのが常だった。道子さんは静かに皆が遊ぶのを優しく見守り、俊子さんは活発でトランプ、銀行ごっこ、カルタ取り他いろいろの遊戯を教えてくれた。私が今もって出来る遊びは此のとき覚えたものだけ。でも私にとって女性は大人にたいするものではなかった。私には好きな遊び相手があった。曰く佐藤達三、相良正美など、よく独楽まわし勝負の遠征などにもでかけた。いずれも可愛い男の子。その他親しく付き合っている人に2年年上の梶原農相時雄という人が居た。日蓮宗の寺の人で私に剣道とか天草の歴史とか色々の事を教えてくれた。彼には姉さんが一人いて自分の鼻の低いのが侮しいとよく洗濯ばさみで鼻をはさんでいた。

後年、広島で剣道で彼の注意を守らなかったことが大変なことになるとは思っても見なかった。ここでも矢張り勉強はそっちのけ、教科書を開いたことは小学校以来なかった。天草を去る時、次の1年生が私に教科書を譲ってくれと言ったのを見た親父は流石にわたしのことを怒った。でも私には前もって話すでもなく、急に天草を去ると言い出した親父に不満を感じた。お陰で世話になった人たちにはお礼の言葉を述べる暇もなかった。今以てそのことを思い出し心の負担になっている。

修道中学編

私は天草の中学一年の終わりに、私の兄のいる住居に両親と共に移転した。広島へ着く前のことは追って序文として纏めることにしよう。

広島に着いて先ず驚いたのはラジオ、メガホンの首を長くしたようなラッパが付いていて、中から音楽が聞こえる生まれて初めてのもの、私の好奇心はいやが上にも。私たちの部屋は2階とのこと。私達3人も増えたので前にいた女中はクビになった由可哀そうに。

家は市の中央部から遠く離れた南西部にあり、あたりには蓮池が多かった。

はて肝腎の兄能一<sup>よしかず</sup>の紹介が遅れたが、彼は東大を4番で出て一応東芝に決まったが、広島高等工業学校の強い要請により教授となった。家庭は奥さんと4人の子供が居た。我々を入れて7人。奥さんの機嫌が悪いのは当たり前。新学期も近づいたので、私は兄の勧めで修道中学に編入するべく入学試験を受けた。ところが散々の成績だったらしく、これは駄目だ。でも河喜多教授の顔を立てて一応入れてみようということになった。兄に話したところたった一言「勉強せいよ」と言って英語の辞書を貸して呉れた。

私は勉強した。一学期末の試験では200人中99

番だった。これには受持ち教師通称鬼さんも驚いたらしい。私の事を田舎からぽつと出てきたやつが。こんな良い成績とは思っても見なかったようだ、皆もしっかり勉強しろよと言った。

なにしろ修道中学は昔からの藩校であり今も毎年4、5人は東大に受かっているのという自信が鬼さんにあって少し揺らいだのだろう。とにかく3学期は20番以内に入った。それから5年生までの事は順を追って話す事にしよう。僕たち3人の部屋は2階。ふと隣の家を見ると階下に素敵な美人。私を見上げて窓をぴしりと閉めた。

あとで聞くと隣は松浦さんと言って貿易商の由、後日外で出会った時失礼しましたと言ったのは彼女の方だった。私は口もきけなかった。私にはその時代にはまだ女性に対する考えは天草での中野君の姉さんに対する思い以上のものはなく、ただ後に、ある医師に懇望されて結婚したと聞きさもありませんと思った。

私が入学して最初に入ったのは園芸部だった。天草での経験がそうさせたのだ、私は皆が菜の株を植えたのに対してひともじ。わかるかな葱の小さい穂を持ったものと考えれば好い。やがて菜が大きくなると虫がたかって菜は食い荒らされ、皆は虫退治に躍起だったが、私の方はのほほんと水を撒く位。そっちの方は良かったが、序文にも述べたように梶原さんの剣道における注意を守らなかった事によるもので、それは一寸ケレン味のあるやり方で籠手を撃つ格好で胴とか面を撃つ方法であるが、有段者には決して使うなと言われていた。ところが中学に入って間もない日、剣道の時間になって試しをすることになり思わずその手を使ってしまったところ4、5人に勝ってしまった。その日はそれですんだが私は選手に選ばれてしまった。仕舞ったと思ったがもう遅かった。校内の試合当日になっていた。試合相手との最初の出会いで相手はこういった。扱うてやるけんのう広島弁でまるっきり馬鹿にした言葉で忽ち面を取られてしまった。それで済めばよかったのに、我ながら

如何したことが教師にまでケレン味を出してしまって、袋叩きにされそれ以来、繰行は乙剣道の点はずっと6点これが卒業まで続いた。その為私の全成績に影響を及ぼした。その代り特に物理化学の成績はよく何時も階段教室の最上段に座ることができた。

私のクラスは班長が岸 英考、副班長が押尾義治だったかと思う。クラスでの成績は1番2番まではいつも同じで、二の宮と名を忘れたので仮に花岡として置こう。後は押尾や鎌田や私など広島を遠く長く離れた身には記憶が曖昧になった。配属将校には受けがよく、後年、相模原の陸軍通信学校に入り将校になる下地となった。

中学4年2学期までは順調だった。毎日花岡と校門を出て御幸橋を渡り専売社の横を通って、時によれば高等学校の門の前の通りに此方むきに牡蠣柄を剥く多くの女性の並ぶのが見られた。

こはともかく、3学期に入って私は鼻の病気蓄膿症になった。いや再発したと言っても好い。それまでは教師からお前は4年から何処の学校にでも入れると言われて居たのに、今まで色々勉強のことを聞きに来てた仲間も来なくなった。父親から治療費も貰えず、いやそれどころか父親も我慢に我慢をしていたと見えて医者に診せたときには既に手遅れ、回復不能の腹膜炎とわかった。父親は命に代えて最後の金も私への金歯にしていたことが後でわかった。母も日ならずして父のあとを追った。好い母ではあつがもう少し自己主張を述べてほしかった。3学期末の総合試験では試験官に試験中鼻をかむ馬鹿者がいると言われ、悔しくて泣いた。

とうとう兄にかねて言われていた、通信官吏練習所への受験も諦め中学5年に進んだ。其のあとの1年如何に過ごしたかよく覚えていない。卒業時のお情けの成績は24番だったと思う。

1年後、継ぎはぎだらけの制服を着て姉の居る水戸に向かうしおたれた私の姿があった。

## 世界ユース入賞報告

世界ユース陸上競技選手権大会の男子メドレーリレーで、3位に輝いた修道高2年の山縣亮太君(17)・広島市西区=と茅田昂君(17)・廿日市市=が3日、藤田雄山知事に入賞報告をした。

イタリアで7月にあった大会には176カ国・地域が参加した。メドレーリレーは、4選手が100～400mを4人で走り継ぐ競技。日本の男子は山縣君が200m、茅田君が300mを走り、和歌山、

宮崎県の選手とともに1分52秒82をマークした。山縣君は男子100mでも10秒80で4位に入った。藤田知事が「来年は受験生。文武両道ですね」と語り掛けると、山縣君は「来年の全国高校総体で優勝したいので手を抜かず頑張りたい」。茅田君は初めての海外遠征に「トラックが日本の硬さと違って驚いた」と感想を話していた。

(中国新聞 09.08.04)

## 見よや修道魂を (全国大会に出場した班紹介2008.9～2009.8)

同窓会より出場者に激励費をだしました。

(100m 4位・400m・メドレーリレー 3位)

平成21年全国高校総体 12名

(100m・400m・800mリレー・1600mリレー)

### 《水泳班》

第63回国民体育大会 9名

### 《ワンダーフォーゲル班》

平成21年全国高校総体 4名

### 《テニス班》

第63回国民体育大会 1名(団体・個人)

第31回全国選抜高校テニス 9名(団体)

第36回全国中学生テニス選手権大会 10名

(団体・シングルス・ダブルス)

### 《スクールバンド班》

第32回全日本アンサンブルコンテスト 14名

### 《陸上班》

第63回国民体育大会 1名

(少年B100m優勝・400mリレー 3位)

第2回日本ジュニアユース陸上競技選手権大会

2名(100m・400m)

世界ユース陸上選手権大会(イタリア) 2名

### 《囲碁班》

第33回全国高校囲碁選手権大会 3名

(個人・団体)

### 《少林寺拳法同好会》

平成21年全国高校総体 2名(団体)

学園だより

## 体育館新築工事進捗状況報告

2009年3月に着工した体育館新築工事は、6月末に旧体育館の解体が完了し、7月10日から始まった杭打設工事が8月8日に終了しました。杭は約30mの長さのものを70本打設しており、大雨等の影響がありましたがほぼ予定通り完了しました。

現在は基礎躯体工事に着手しており、北側（テニスコート側）半分のエリア（1工区）の内、半分の基礎コンクリートの打設が終了しています。

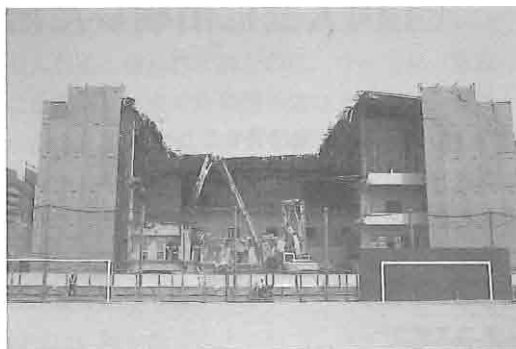
9月に入り、初旬には1工区全ての基礎コンクリート打設が完了し、続いて南側のエリア（2工

区）の基礎躯体工事に着手します。9月末には全ての基礎コンクリート打設が完了する予定となっています。2工区基礎躯体工と同時に、1工区の埋め戻し、埋設配管、1階床コンクリートの打設を行い、9月末より1階躯体工事に取り掛かります。9月末には120tクローラークレーンの組立も行う予定であり、10月からは、いよいよ地上部躯体工事が本格的に始まります。

工程は予定どおり推移しており、遅延はありません。竣工は2010年3月の予定です。



解体前の体育館



解体工事



解体工事終了後



基礎工事



## 人物往来

## 激戦区 小回りで勝負

高木 一之氏 (高校10回・広島信用金庫会長)

広島信用金庫(本店・広島市中区)が「食と農を考える」事業を始めて3年。県内の農業生産者と食品関連企業を結びつけ、商談を成立させるなど、着実に成果を上げつつある。必ずしも金融機関としての収益には直結しないが、不況下でもあえて事業継続の方針を打ち出している高木一之理事長(69)に、取り組みの経緯やねらいを聞いた。

—金融機関がなぜ農業に関する取り組みを始めたのでしょうか。

株式会社ではなく協同組織として、地域の活性化に役立つことはないかと考え、創立60周年の05年に「お客様サポート部」を作ったばかりでした。ちょうどそのころ遊休不動産の活用や不振の建設業からの農業参入などの話が出ており、市民農園の人气が高まっていることも知って、農業を取り上げてはどうかと考えました。

—県立広島大との協定が第一歩でしたね。

バイオテクノロジーなど農業関係に実績のある県立広島大と06年、産学連携の包括協定を結びました。当金庫の取引先企業に声をかけ、産学官連携講座「食と農を考える」を開き、県立広島大の庄原キャンパスや農業参入している企業を視察。さらに「機能性食品」「生産農業」「癒やしの農業」の3分科会を作り、研究会を重ねました。

—生産者と企業の連携支援に発展しました。

07年に集落型農業法人と、事業の参加企業の間で意見交換会を開きました。08年には初の県内農産物などの個別情報交換会「アグリビジネスフェア」を開き、生産者46団体、JAなどが出展、食品製造業、飲食業、ホテル、流通業など約200事業者が来場し、35件の商談が成立しました。今年2月の2度目のフェアには生産者72団体、農業関連企業8社、JAなどが出展、283事業者が来場し、当日だけで17件の商談が成立しました。ホテルや飲食店、介護施設の給食などで県産農産物を使うといった小さな試みが中心です。

—今年も支店での産直市まで始めたと聞きました。

「地産地消」に向けて地元の生産者と消費者を結びつけようと、西風新都支店(安佐南区)で、3月から地元の生産者に呼びかけ、産直市「おばさんの店」を始めました。今後も毎週土曜日に予定していますが、生産者が農家レストランを作るなど、活動が広がっています。広島市という大消費地をエリアとしている当金庫として、中山間地を元気にするお手伝いをしたい。

—近年は屋上緑化事業にも取り組んでいますね。

廿日市中央支店の建て替えに伴い建設した「有信廿日市ビル」の屋上約260平方メートルを昨年春、緑化しました。スナックエンドウ、トマト、米など1年を通じて収穫できる農園も作りました。ビルに入っている保育園の園児にも農作業を体験してもらい、広島国際学院大、広島工業大と園芸会社による屋上緑化の商品化などに向けた研究にも使っています。

—不況で中小企業の経営が厳しさを増しています。影響はありませんか。

中小企業専門の金融機関として、不況の今、その責任はますます大きくなっていると考えています。きちんと企業との接点を持ちながら、地域内の金融をサポートしたい。今後は外需から内需への転換が必要ともいわれており、農業による連携支援の取り組みも、今だからこそ続けたい。広島地区は都銀から地銀、信組まで多くの金融機関がひしめく激戦区ですが、地銀などないプラスアルファがなければ勝負になりません。取引企業との顔の見える関係や、小回りが利くことを生かしていきたい。

(朝日新聞 09.04.18)

## 広島経済同友会 深山・高木体制が発足

深山 英樹氏 (高校12回・広島ガス株式会社代表取締役社長 執行役員)  
高木 一之氏 (高校10回・広島信用金庫会長)

広島経済同友会(広島市中区)は21日中区のホテルで総会を開き、筆頭代表幹事に深山英樹広島ガス社長(高校12回:67歳)、代表幹事に高木一之広島信用金庫理事長(高校10回:69歳)が就任する同日付の役員交代を承認した。新体制では、

広島市東区二葉の里地区への「高精度放射線治療センター」建設に向けたシンポ開催などを予定している。

深山筆頭代表幹事は2007年4月から代表幹事を務めている。05年4月から代表幹事を務めた山本一隆筆頭代表幹事（高校14回：65歳）＝中国新聞社副社長＝は同日、任期満了で退任した。代表幹事の任期は一期二年で、二期四年を務めるのが慣例となっている。

総会後に会見した深山筆頭代表幹事は「企業経営にとって難しい時代だからこそ、勇気と英知で活力ある地域づくりに取り組みたい」と抱負を語った。地球環境委員会を設け「環境保全と経済発展の両立という難しい問題に挑戦する」と強調した。

高木代表幹事は「時代の大きな変わり目一歩、二歩先を見据えた提言をしたい」と述べた。

J R広島駅北西の二葉の里地区への高精度放射線治療センターの建設に向けては、シンポで機運を盛り上げ、先進地の視察も計画している。

（中国新聞 09.04.22）

## 被爆者治療支援進める

碓井 静照氏（高校8回・広島県医師会長）

ブラジルとの交流を続けて30周年を迎えた広島日伯協会の会長に碓井静照・広島県医師会長（高校8回：72歳）が就任した。医療分野での連携強化など今後の抱負を聞いた。

一どのような交流を目指しますか。

両国は経済の重要なパートナーだ。ブラジル側はバイオ燃料や航空機などのビジネス拡大を期待している。

一医療分野ではどう連携しますか。

県医師会はすでに昨年6月、サンパウロ州の医師会と姉妹縁組を結び、被爆者治療の情報交換を進めている。高齢の被爆者は渡日治療の負担が重い。現地で高いレベルの医療を早期に提供できるよう取り組む。

一ブラジルに寄せる思いはありますか。

1930年に現地へ渡り日系人の医療に尽くした細江静男医師の話を以前に読み、現地の医療に関心を持っていた。2007年には現地で被爆体験を話し、

核兵器廃絶を訴えた。平和を願う心で両国を結びつけたい。

一広島県内で働く日系人への対策は。

日系人は広島のものづくりを支えてきたが、景気の悪化で、解雇や仕事が見つからないケースが増えている。子供の教育問題も気に掛かる。現状を早急に把握して、何ができるか考えたい。

（中国新聞 09.06.11）

## 環境など新産業創造

福田 浩一氏（高校23回・山口銀行頭取）

山口ファイナンシャルグループ（山口FG、下関市）設立から10月で丸3年を迎える山口銀行。福田浩一頭取（山口FG社長）は、中国にある支店も活用し、環境分野の産業振興などを通じて地元企業の支援を強める考えを示す。

一地元の景気をどうみますか。

経済の急激な落ち込みからは回復してくるだろう。ただ回復に広がりを持たせられるかが課題だ。自動車など従来の基幹産業だけで景気が回復しても、地域全体としての回復につながるかは分からない。環境や農業など新しい産業を創造することができればと思う。

一新産業創出に向け具体的な構想はありますか。

例えば下関市にある沖合人工島の活用。（環境分野に重点投資する）米国のグリーン・ニューディールのようなモデルとして、島内の電力を全て風力や太陽光で賄うエリアにしてはどうか。地元企業を中心に組み立てたい。

一地場企業の支援では何に力をいれますか。

中国の青島と大連に支店があるので積極的に活用したい。せっかく海外拠点があるのだから、メガバンクなどとは違い、きめ細かく相談に対応することで地元企業を支援したい。

中国では「環境に関する日本企業の先進的ノウハウを提供してほしい」とのニーズもある。環境は大きな問題で今後、中国でさらに関心が高まる。昨年10月には広島市南区でエコをテーマにしたビジネスマッチングフェアも開いた。

一地場企業の環境分野の取り組みをどう見ますか。

山口県発祥の化学メーカーなどは、環境に対し

先進的な取り組みをしている。そのノウハウを発信し、地域でのモデルを示す。

—山口FG設立から10月で丸3年になります。もみじ銀行（広島市中区）との統合効果は出ていますか。

もみじ銀行が良くなったのは間違いない。貸倒引当金を以前より手厚く積むなどして経営体力が増した。統合の方向性は間違っていなかった。引き続き広島県のリテール（小口取引）分野を担う。

一方、グループで展開しているクレジットカード部門や証券部門は、まだ山口銀からの紹介に依存している面もある。新しいチャレンジをしたい。

—厳しい業績となった山口銀の2009年3月期の決算を、どう受け止めていますか。

与信費用が膨らみ、利益は当初計画の6割も上げられなかった。満足したとはいえない。競争は厳しいが、もっと広い視野で地域の活性化を進める。銀行経営は従来型では通用しない。新しいビジネスモデルを構築したい。

（中国新聞 09.06.04）

## 温室ガス削減中期目標

齊藤 鉄夫氏（高校22回・環境大臣）

地球温暖化を食い止めるための温室効果ガス排出削減で、政府は2020年までの中期目標を「05年比15%減」と決定した。齊藤鉄夫環境相（公明、比例中国）に評価と課題を聞いた。

—環境相としてはもっと高い目標を目指したのでは。

科学の要請に応える、中国など主要排出国を巻き込む、日本の技術革新を生む。この3点を目標に、あらゆる機会ですま太郎首相に訴えた。各方面の意見を踏まえ、首相が決断された。最終的には国際交渉を通じて確定する。第一歩と思って努力する。

—途上国支援を算入するクリーン開発メカニズム（CDM）などで上積み考えですか。

15%減は国内の「真水」分。私自身はCDMなども含め25%減も視野に、と首相に進言してきた。途上国は削減の余地が大きいのに技術、資金が足

らない。CDMをマネーゲームのように悪く言う人が多いが、日本に求められている方法だ。

—産業界は「高い目標だと国民負担が膨らむ」と強調しました。

温暖化による洪水や食糧不足の被害との比較や、環境技術の革新で得られる利益も考えたい。経済への悪影響は計算モデルによって印象が左右される。エネルギー源の転換が光熱費に響くのは確かだが。

—目標実現へ課題は何ですか。

削減が経済的利益になる仕組みづくりが必要だ。（省エネ家電の購入を促す）エコポイント、環境対応車、太陽光パネルへの支援の「3点セット」はその第一歩。環境教育の充実も重要な柱になる。

植林に取り組む廿日市市の地御前漁協や、水素自動車、アイドリング制御車の開発に励むマツダの挑戦に触れた。広島は低炭素社会への先頭に立つてほしい。

（中国新聞 09.06.14）

## 広島県観光連盟会長に就任

大田 哲哉氏（高校11回・広島電鉄代表取締役社長）

任期満了となった仁田一也会長の後任として、6月5日の総会で広島県観光連盟の会長に選任された。今年度の主要事業に、県の「ひろしま観光立県推進基本計画」の施策の展開、広域観光ルートの開発、外国人旅行者に対応した観光施設の改修などを挙げる。「しまなみ海道10周年の今年、愛媛との交流を一層強化したい。県と商工会議所で行っている愛媛広島交流会議で実施が決まった、9月のミュージカル『鶴姫伝説』広島公演をぜひ成功させたい」。会頭を務める広島商議所でも観光は重点事業の一つ。広島観光コンベンションビューロー理事長も兼任しており、「経済4団体と県市の観光部門の連携を一層強化でき、観光振興の最高の布陣がひけると思っている。観光地というのはその場所の物語を作ってやることで生まれることがある。地域に埋もれた歴史や伝説を掘り起こしたい」

（広島経済レポート 09.06.25）

## 不況の中小融資で支援

坪井 宏氏 (商大(商)3回・広島信用金庫理事長)

8年間務めた高木一之会長(高校10回:69歳)に代わり理事長に就いた。地域の中小企業の厳しい経営が続く中、「中小の支援のため、融資や販路拡大を進める。それが信金の原点だ」と力を込める。

預金残高は1兆円を超え、中国地方の信金でトップ。地域の景気回復が不透明な中、「こういう時こそ、企業と真正面から向き合う」と強調する。

農業生産者と飲食店やスーパーを結ぶ商談会の開催など、農業分野の支援が柱の一つ。「まだ模索の段階だが、地産地消につなげたい」。また「すそ野が広い製造業が活性化しないと、地域が活性化しない」とみて、本年度は大幅減産などで苦境にある製造業の支援を強める。

「ワンランク上」を目指すという財務基盤の強化に向け、「預金、貸出金を強化する」と本業を最優先に取り組む考え。「企業支援のためには、信金の経営が健全であることが前提だ」と話す。

入庫して43年。主に人事や企画畑を歩んだ。人事部長や人事担当役員を長年務めたため、特に人材育成の重要性を説く。4月に始めた経営3か年計画でも、人材育成を柱の一つに据えた。

団塊世代の大量退職などで世代交代が進む。若い職員には「収益の追求だけではなく、信用金庫の相互扶助の理念を理解してもらいたい」と言う。

高木氏は、全国の信用金庫の業界団体役員を務めるなど存在感を示した。従来の路線を引き継ぎながら「時代が変化する中で自分なりの対応をしていけば、結果として独自色が出てくる」と話す。

モットーは至誠とバランス。「誠実な心を持ってできないことはない」。バランスについては、厳しさと優しさなど両極を持つ大切さを説く。「協同組織として、相互扶助と収益性というバランスも重要。信金らしさの軸がぶれてはならない」

趣味はスポーツ観戦と散歩。中学時代は陸上部、大学時代は硬式テニス部のキャプテンを務めた。「正月はテレビで駅伝さんまい。選手間の駆け引きが面白い」。娘2人は独立し、4人の孫と体を動かして遊ぶのが何よりの息抜きという。妻と甘

日市市内で暮らす。

(中国新聞 09.07.01)

## 新人時代

大方幸一郎氏 (高校38回・懶大方工業所代表取締役社長)

1990年に慶應大を卒業後、マツダに入社しました。最初の配属先は海外営業本部欧州部。イギリスに赴任し、全土のディーラーを1件ずつ回り、ブランドの普及活動から始めました。イギリスは、複数メーカーの車を扱うディーラーが多く、マツダの専売を勧めるのも仕事の一つでした。

欧州は車発祥の地のため、日本車に偏見を持っている人もいました。しかし、「壊れる」前提で造られた欧州車と「壊れない」ように造られた日本車では、乗っているうちにその性能の違いを実感してくれる人が多かったですね。新型車を発売するときは、日本から開発担当者が来て、現地人に修理方法などを指導しました。英語が話せなくても、目の前で機械を直すことで信頼を集めており、技術は国境や言葉を越えると実感しました。91年にル・マン24時間耐久レースで、マツダの初優勝を見られたのは貴重な経験です。苦い経験ではチェコのプラハ滞在中に爆弾テロを体験。目の前で車が爆発し、日本がいかにか平和かと感じました。

95年に空調・水道工事の当社に入社。全く違う業種だったので、最初の6年間は現場で経験を積みました。多くの人が自分の責任を果たすことで、一つの目的を達成できると現場から学びました。08年に社長に就任。不況で厳しい船出ですが、現場力向上を図り、日々まい進していきます。

(広島経済レポート 09.07.02)

## 日本泳法大会によせて

静川 周氏 (高校15回・広島遊泳同窓会会長)

平成17年8月の第50回日本泳法大会から団体泳法競技に本格的に参加し始めてから4年経ち、今年こそ何とか一勝したいと思っていたところ、奇しくも水泳学校の同窓生でもある細迫知恵、河本明子、松岡千映と新旧の女子のエースが揃い、山

本一水、山下正熙を加え強力な陣容を揃えることができました。

日本水泳連盟が公認している日本泳法の流派は現在12流派ありますが、今回、我が神伝流のほか、水府流、水府流太田派、向井流、水任流、小池流が参加しました。水府流太田派は、東京で発展したせいもあり、団体数が多く、今回の対戦相手はいずれも水府流太田派ばかりとなりました。競技は選手が一对一で計5人が対戦し、勝者の多い方の勝ちとなります。横体、平体、立体の泳ぎ方を最低一種目ずつ入れる必要があり、どう組み合わせるかが難しいところでした。結果は、選手諸氏の奮闘により初戦突破にとどまらず、見事第3位入賞と快挙をあげることができました。

今後も参加し続けたいと思いますので、皆さんに積極的にチャレンジしていただきたいと思ます。

(日本泳法 神伝流広島遊泳同志会 会報2009号外)

## 新社長 不況下付加価値で勝負

白井浩一郎氏 (高校48回・中国醸造㈱代表取締役社長)

1日付で父の白井龍一郎氏(62)を継ぎ、5代目社長に就いた。歴代で最年少の就任。「不況下で変化が著しい酒類市場に若い感性で挑みたい」と意気込む。

就任を打診されたのは約1ヵ月前。取締役として製造部門を中心に担当していたが、まだ入社3年目。「心の準備はしていたが、こんなに早いとは」と胸中を明かす。

米国の大学院を修了後、テレビの部品メーカーに就職。龍一郎氏に請われ中国醸造に入った。「父も30歳代で社長に就いた。体力が豊富なうちから経営者として経験を積みたい」。25年社長を務め、会長に退いた龍一郎氏からもアドバイスを受けるつもりだ。

消費者の低価格志向が強まる中、大手メーカーの発泡酒や「第三のビール」が伸びる現状に危機感を抱く。昨秋以降、手ごろな価格の紙パック容器の焼酎が伸びているが、「価格競争では大手にかなわない。高付加価値のお酒で対抗すべきだ」と強調する。

期待するのは、リラックス効果などがあるとされるアミノ酸「ギャバ」入りの梅酒。広島大学院との共同開発で2006年に発売し、スーパーなどに販路を広げている。「大手が健康志向として力を入れるのはカロリーオフ。ギャバ入り梅酒は同じ健康志向でも独自性を発揮できる」

広島県内では地元農作物を使った酒類に力を入れる。庄原市産サツマイモを使った焼酎や尾道市瀬戸田町産レモンを使ったリキュールなどを販売している。「地元の醸造会社だからこそ、消費者に地産地消のメッセージが伝わるはず」と力を込める。

焼酎、清酒をとともに造る県内唯一の総合酒類メーカー。商品数は約200に達する。酒類の消費量が伸び悩む中、生産効率の向上も大きな課題だ。「5年間で商品を約100種類まで絞るのが目標」と言う。

ただ「ダルマ焼酎」など長年親しまれてきた商品は今後も生かしていく考え。「酒店主の声にも耳を傾けながら進めたい」。早速、経営手腕が試される。

広島市佐伯区に住む。社内の野球部の練習で汗を流すのが楽しみだ。「評判の良い料理店に足を運ぶのも好き。経営のアイデアにもつながれば」とほほ笑む。

(中国新聞 09.08.14)

## 新しい価値観運ぶエコカー

藤井 一裕氏 (高校34回・広島トヨタ自動車㈱代表取締役社長)

ハイブリッド車の新型「プリウス」の売れ行きが大変好調です。5月の発売からこれまで当社の受注台数は約1300台以上になっています。全国の受注総数も25万台と聞いています。

「エコカー減税」や最低価格を旧型から約30万円も下げたことが後押しし、地球温暖化などの課題に対応した「プリウス」の商品が時代とマッチし、消費者の心を動かしたのでしょう。

お客様対応のためと、ハイブリッド車を増やすために、立ち上げた「広島トヨタハイブリッドクラブ」の会員数も発足から1年余りで2倍以上の約2600人になりました。会員のお客さまに共通し

ているのは、エコへの意識が高く、健康や社会貢献などへの好奇心が旺盛なこと。プリウスという車の特性が、実用性を求める人々の価値観に合っているように思います。これからの新しい発見を念頭に、サービスの新たな方向性を見いだしていきたいです。

(中国新聞 09.08.21)

## 事務局だより

### 第35号修道学園(中・高)同窓会名簿発刊について

修道No.67でもお知らせいたしましたとおり、同窓会名簿第35号を発刊いたします。

1. 発刊予定日：平成22年3月23日
2. 販売価格：5,500円（送料・消費税・振込手数料含む）
3. 名簿作成委託業者：株式会社サラト  
※名簿データの追加及び訂正の最終締切りは平成21年12月19日です。

既に調査を開始し、同窓生の方々には調査はがきをお出ししておりますが、まだお手元に届いていない方や同期の方々の新しい情報をお持ちの方は、至急下記連絡先までご連絡ください。

修道学園（中・高）同窓会名簿専用電話

0120-937-615（9:30～16:00 土曜・日曜・祝日を除く）

株式会社サラト

〒670-0948 姫路市北条町宮の町172

併せて今回、同窓会名簿第35号に掲載する協賛広告の募集も行っております。

ご協力よろしくお願いいたします。

#### 《広告料金》

- ① カラー 1/1頁 200,000円
- ② モノクロ1/1頁 80,000円
- ③ モノクロ1/2頁 50,000円
- ④ モノクロ1/4頁 30,000円
- ⑤ モノクロ1/10頁 18,000円（名刺広告）

※広告はまとめて巻末に掲載します。

※広告お申込者が同窓生の場合に限り名簿を1冊進呈いたします。

※広告掲載の受付締切日は平成22年1月21日です。

す。

修道学園（中・高）同窓会名簿広告専用電話

0120-255-350（9:30～16:00 土曜・日曜・祝日を除く）

株式会社サラト

〒670-0948 姫路市北条町宮の町172

## 訃報

竹下虎之助氏（前修道学園理事長）

平成20年12月16日 ご逝去 享年84歳

在任期間 平成8年3月21日～平成12年6月30日

真野 尚氏（元修道中学校・修道高等学校教頭）

平成20年12月26日 ご逝去 享年83歳

在職期間 昭和25年10月1日～昭和61年3月31日

木原 一男氏（元修道中学校・修道高等学校庶務課長）

平成21年1月27日 ご逝去 去年92歳

在職期間 昭和47年4月1日～昭和51年12月31日

高橋 令之氏（元修道学園専務理事）

平成21年2月13日 ご逝去 享年88歳

在任期間 昭和57年4月1日～昭和60年5月31日

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

・会報誌へのご寄稿につきましては、ご多忙にもかかわらず、ご協力いただきまして誠にありがとうございます。今後も会報誌への記事を募集いたしておりますので、ぜひともご寄稿いただきますようお願い申し上げます。

今回の発刊は平成22年3月の予定です。